

平成25年～29年度 文部科学省

「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

ウェルネス×協奏型地域社会の
担い手育成「学び舎」事業

04

平成28年度
成果報告書

平成29年3月



平成25年～29年度 文部科学省
「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

ウェルネス×協奏型地域社会の
担い手育成「学び舎」事業



平成28年度
成果報告書

平成29年3月

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業 平成28年度 成果報告書

《目次》

ごあいさつ	P 3
事業推進責任者 札幌市立大学 学長 蓮見 孝	

I. 平成27年度のCOC事業評価

COC事業 評価部門	P 6
------------------	-----

II. 事業概要

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業の概要	P10
COC事業担当者 デザイン学部 教授 中原 宏	
学内組織体制図	P12
施設平面図	P13

III. 活動報告

0. 活動履歴	P16
1. 教育改革推進チーム	P22
2. 研究企画推進チーム	P26
3. 学び舎企画推進チーム	
3.1 〈SCUまちの教室〉班	P30
3.2 〈SCUまちの談話室〉班	P34
3.3 〈SCUまちの先生〉班	P40
3.4 〈SCUまちの健康応援室〉班	P42
4. 広報企画推進チーム	P50
5. COC特任教員	P54

ごあいさつ

事業推進責任者
札幌市立大学 学長
蓮見 孝

札幌市立大学 (SCU) が平成28年度に推進してきたCOC (Center of Community) 事業について報告します。

SCUは、平成25年に公募されたCOC事業(文部科学省「地(知)の拠点整備事業」)に札幌市と共に申請し採択を受けました。平成28年度からCOCは発展的にCOC+に移行することになったため、SCUは室蘭工業大学が代表校となり推進されるCOC+に参加するとともに、引き続きCOC事業活動に意欲的に取り組みました。

SCUの事業名称は「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業」。地方創生に必要な「地域の担い手の育成」と「地域住民とともに健康の維持・促進を図るウェルネス」の取り組みを、SCUの特長である「デザインと看護の連携(D×N)」を活かして推進しようとするものです。

本年度事業の概要を、COCの3大事業である教育改革、研究企画、学び舎企画に分けて報告します。

[教育改革]では、学部教育4年間を通じて地域志向教育の充実強化をめざすカリキュラム構築に取り組みました。SCUは10年前の開学以来、相互に15kmも離れているデザイン学部(D)と看護学部(N)の2キャンパスをつなぎ「D×N連携」を強化する学部連携型演習に力を注いできました。COCでは、両学部の全学生が履修する「スタートアップ演習」(1年次対象)と、「学部連携演習」(3年次対象)を、札幌市南区の10地区をフィールドとするPBL型授業に発展させました。地域のみなさまから温かい熱心な支援・指導をいただくことにより、学生の発表内容の質が大きく向上しました。さらに学生による授業評価や地域からのコメントをもとに、授業のプロセスやアウトカムについて評価し改善につなげていく仕組みも整備しました。そして平成29年度からは、「学部連携基礎論」(2年次対象)を、そして平成28年度からは「地域プロジェクト」(新1年次対象)という新たな授業を立ち上げ、4年間を通じて地域志向教育を行う体制を整えました。

[研究企画]では、「COCリサーチ・共同研究」を年度初めに全教員を対象に募集し、2件の研究を採択しました。また平成26年度に南区住民を対象に行った高

齢者ニーズ調査は、引き続き大学のウェルネス研究に活かされています。さらに、平成28年度には、地域創生デザイン学の深化をめざす科研費・基盤研究(A):「『拡張キャンパス型地域連携』による過疎市町村の自律的創生デザイン研究」が採択を受け、COC効果が多岐に及んできていることを実感しました。

[学び舎企画]では、一昨年5月に開校した「COCキャンパス まちの学校」を有効活用し、「まちの教室」、「まちの談話室」、「まちの先生」、「まちの健康応援室」という4つのプログラムを運営しました。

「まちの教室」では、全教員が公開講座を行うことを目標に多岐にわたる講座を開講しました。また一部授業を公開とするなど、市民の大学COCへの認識を高める工夫を行いました。「まちの談話室」では、連携・交流施設「まこまる」全体の公開イベントである「まこ×まち」に参加するなど多彩なイベントを学生が推進役となり企画実施しました。「まちの先生」では、学外講師の発掘と学外講師による運営体制を検討する活動をおこないました。「まちの健康応援室」では、アウトリーチ活動(出前)にも力を注ぎながら、大学による地域の健康支援方法を模索しました。

昨年度の評価については、SCUのCOC評価部門会議が6月に開催され、「概ね良好、ほぼ計画通り実施されている」と評価されました。また文科省によるCOCに係る中間評価のヒアリングを9月27日に受け、本年2月に、「A」評価をいただきました。

事業4年目を経て、COCの活動に対する認知度は少しずつ高まってきました。次年度にはCOCの最終年度を迎えることから、COCの継続的發展をめざして札幌市との協議を行い、平成30年度からの第三期中期計画にもCOC活動をしっかりと組み込んでいけるよう準備を進めます。

多くの学生たちと多世代・多セクターのみなさんの学び合いの地域プラットフォームが一層強固なものに整えられていくことを、そして地域の未来のために市民主体のまちづくり、健康づくりの活動が大きく成長していくことを心から期待しています。

I.平成27年度のCOC事業評価

COC 事業 評価部門

平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日

【学内委員】

中村 恵子 札幌市立大学 特別顧問・特任教授（評価部門長）

城間 祥之 札幌市立大学 デザイン研究科長・デザイン学部教授

【学外委員】

細川 敏幸 北海道大学 高等教育推進機構 環境健康科学研究教育センター 教授

瀬戸口 剛 北海道大学 工学研究院建築都市空間デザイン部門空間計画分野 北極域研究センター 教授

遠藤 滋 北海道立総合研究機構 連携推進担当理事

佐藤 正義 シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議（南区区民協議会）顧問

山田 一八 札幌市総務局行政部 改革推進室長

本事業では、学外委員も含む評価部門を設け、事業の推進状況の評価をおこなっている。
平成 27 年度の事業評価結果は「概ね良好、ほぼ計画どおり実施されている」であった（右記参照）。

平成28年(2016年)8月16日

COC 部門長(COC事業担当者)
中原 宏 様

COC 評価部門長
中 村 恵 子

平成27年度「地(知)の拠点整備事業」の実施状況に関する評価結果について

平成28年6月29日に開催した平成28年度「地(知)の拠点整備事業」評価部門会議において、平成27年度の本事業実施状況を以下のとおり評価しましたので通知いたします。

記

1 評価結果

平成27年度の本事業は、「概ね良好、ほぼ計画どおり実施されている」と評価する。

2 意見

以下の意見を参考に、引き続き推進してください。

① 組織体制・基本事項

本事業の組織は全員参加型で全体的には機能しているが、大きな組織であるが故に更なる工夫が望まれる。また、事業全体は、ほぼ計画通りに進捗しているが、一部目標達成が十分でない事業がある。目標設定の再検討も一考と思われる。

② 教育活動については、十分に実施している。今後は、学生にインセンティブが働く仕組みを検討してはどうか。また、本事業は平成28年度をもって4年目を迎えることから、教育成果について4年間学修した4年生を対象に調査を実施し、その成果を明確にされることを望む。

③ 研究活動については、指標の達成が低調である。年度を経るごとに予算が削減されるなど理解できる面もあるが、当初の指標設定自体に瑕疵があり、現状では最終年度までに達成することは困難であると考え。指標の見直しを含め再検討していただきたい。

④ 社会貢献活動については、着実に取り組んでいる。独創性があり市民が魅力を感じる公開講座の実施に一層努めるとともに、地域住民との共同ワークショップなど参加しにくい教員が参加できる仕組みづくりや、本事業終了後を見据えた地域の受け皿づくりなどを推進することを望む。また、地域の活性化を促すためには、大学の役割は非常に大きい。「地(知)の拠点大学」として知的資源を地域により還元するため、教員や学生から地域活動家となるスペシャリストを育成し、参画することを望む。更に活動を地域へ発信するためには、モデルとなるケースなどの紹介も有効と考える。

⑤ 広報活動について、幅広く実施している。ウェブサイトは閲覧層が限定的であり、町内会の回覧板の更なる活用など、地域へより効果的に浸透する情報発信を望む。

⑥ 予算の執行について、経費を節約した努力は評価するが、計画性に欠ける面が見受けられる。今後は、未執行額が想定される場合には新たな取組を検討するなど、適切かつ効果的な執行管理を行い、本事業の更なる充実を望む。

⑦ 前年度の本評価結果を受け、どの事業をどのように改善したのか、活動の留意点などの説明が若干不足していたと思われる。本年度の評価結果を厳粛に受け止め、今後の本事業に生かしていただきたい。

⑧ 本事業終了後のCOCキャンパスの維持、地域社会との連携等について、本事業の意義を十分に踏まえたうえで、早期に札幌市などと交渉されることを望む。

II. 事業概要

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業の概要

COC 事業担当者
デザイン学部 教授
中原 宏

本事業は、札幌市と連携し、廃校となった小学校の一部に地（知）の拠点「札幌市立大学COCキャンパス」を新設し、ここを多世代・多セクターが学び合う「学び舎」として整備し、「地域志向」の教育・研究・社会貢献活動を推進するものである。札幌市、とくに南区では、少子高齢化が進み、コミュニティの再構築、地域の魅力ある顔づくり、高齢者のウェルネス支援が課題となっている。この課題解決に向けて、デザインと看護の専門性を有する本学が、ウェルネス支援や地域の活性化に貢献する人材を育成するなど、地域志向プロジェクトを地域住民と協働して展開する。あわせて、本学の学生が、本学COCキャンパスで地域の現状を体感し、課題を読み取り、解決策を提案する過程で、「専門性を実社会に活かす力」を獲得することを目指す。

平成27年5月より「まこまる」（旧真駒内緑小学校）内に本学COCキャンパス「まちの学校」が開設され、名実ともに本格的にCOC事業を推進してきた。平成28年度の主な事業の構成と、実績は以下のとおりである。

1. 教育：異分野連携教育の拡充と

地域志向の強化によるカリキュラム改革

地域志向を有する人材育成を、本学の教育カリキュラムに明確に位置付け、それに伴って増強科目を新たに設置することを目的として活動を行っている。本年度はとくに、「地域プロジェクト」をカリキュラムに組み入れること、次年度に開講する「学部連携基礎論」の2科目について重点に取り組んだ。

①「地域プロジェクト」の開講と展開

平成28年度は、「地域プロジェクト」を正規科目として開設した。年間を通して11件のプロジェクトを教員から提示し、各々を受講する学生に適切な指導を行った。プロジェクト実施後は報告会を設け、昨年計画した通りの授業を実施することができた。

また、在学中に学習の深度に合わせてこの科目を受講できるよう、引き続き追加科目の設計を行った。

その結果、平成29年度のカリキュラムからは「地域プロジェクトⅠ（基礎編）」「地域プロジェクトⅡ（応用編）」「地域プロジェクトⅢ（発展編）」の3科目で展開することとし、在学中に地域プロジェクト学習を継続できることとした。

②「学部連携基礎論」の開講準備

「学部連携基礎論」は、平成28年度新カリキュラムの新科目として、両学部2年次開講の必修科目として設定した。専門教育科目の専門科目「学部連携」に位置づく科目として設定し、本年度入学生が2年次になる平成29年度に初開講となる。科目の内容は、3年次の従来科目「学部連携演習」の基礎となる講義内容を含み、より深い地域学習の準備を行う授業に位置づけるよう、具体的な授業内容を決定した。授業の前半では異分野連携に必要なレディネスの獲得を目標に、連携の意義や地域の実践例、地域調査法などの講義を行い、後半ではグループに分かれて、各学部の専門性の見地から担当地域の課題を分析し、連携による課題解決の可能性を検討する構成とした。

2. 研究：ウェルネス×協奏型地域社会の構築に

寄与する研究の推進

本事業では、対象地域の課題解決に寄与する、ウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした研究を「COCリサーチ」として位置づけ、以下の取組を行っている。

①ウェルネスサイエンス研究の推進

COCリサーチについては、全学教員を対象とする競争的研究資金（「地域志向」研究のための研究費補助制度）を平成25年度に「COC共同研究費」として創設し、積極的に支援することとした。平成28年度のCOCリサーチとしては2件の研究を採択するとともに、平成27年度のCOC研究成果報告書を作成しホームページに掲載した。

②研究基盤の整備・研究関連調査

学内の教員が実施している「地域志向」の研究動向を実態調査した。

3. 社会貢献：コミュニティ再構築等の

地域課題克服に寄与する社会貢献活動の展開

本事業では、対象地域の課題解決に寄与するウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした社会貢献活動を「COCまちの学校」として位置づけ、これをさらに ①まちの教室 ②まちの談話室 ③まちの先生 ④まちの健康応援室 の4事業に区分して全学的に展開している。

① まちの教室：

地域住民向けの公開講座・セミナー事業

本学の全教員が、積雪寒冷地の「まちづくり」や「ウェルネス」に関わるデザイン学・看護学の最先端の講義を地域住民に対して行うものである。平成28年度は公開講座計21企画、44回、大学院授業公開計2科目13回を実施した。

② まちの談話室：

多世代・多セクターの交流事業

地域の人々のウェルネス（健康で、楽しく、生きがいがある状態）を創出する場を設定するとともに、各種事業やイベントを開催し、大学と地域との交流を深めるものである。平成28年度は以下の取組を展開した。

- ・図書室・談話室の運営
- ・ぱくりっこ掲示板の運営
- ・地域住民が本学教育研究活動の理解を深めるための展示企画の実施
- ・地域住民の交流を促す企画の実施

③ まちの先生：

地域住民が主役となる生涯学習事業

専門知識・技能を有する地域住民が講師となって地域住民の生涯学習講座を担う事業である。平成28年度は、市民と本学教員（まちの先生班メンバー3名）による「まちの先生」運営委員会を毎月開催するとともに、講師となる住民の企画募集の説明会（2回）と、「まちの先生」の夏季・秋季・冬季講座を計15企画（全13回）開講した。

④ まちの健康応援室：

地域住民の気軽な健康相談の場所

看護学部を有する本学の専門性を活かした地域住民へのウェルネス支援事業の一環として、地域住民の健康・生活に関する相談、助言を行う「まちの健康応援室」を平成27年9月に開設した。本学看護学部教員と、保健師・看護師・薬剤師・管理栄養士などの専門資格をもつ有資格ボランティア18名の協働によって相談への対応体制をつくり、地域の方たちの相談や健康チェックに当たっている。

平成28年度はこれらの活動に加え、地域への出張活動6回、公開講座を3回実施した。この他、学生企画「みんなで楽しくふまねっと」の支援を行った。

4. 広報・記録活動

COC広報企画推進チームは、「教育改革推進チーム」「研究企画推進チーム」「学び舎企画推進チーム」が推進する事業を、地域・社会へ繋げる支援を目的としたチームである。主に、他チームの活動の記録、成果の社会への発信を目的としている。平成28年度の具体的な活動としては以下の取組を行った。

- ①COC催事イベント運営
- ②COC広報活動（案内ポスター、印刷物等の制作）
- ③COC広報Web Siteの運用・改善
- ④映像によるCOC事業記録
- ⑤COCキャンパス内のサインデザイン
- ⑥平成28年度COC事業報告書の作成

5. COC事業推進のための仕組

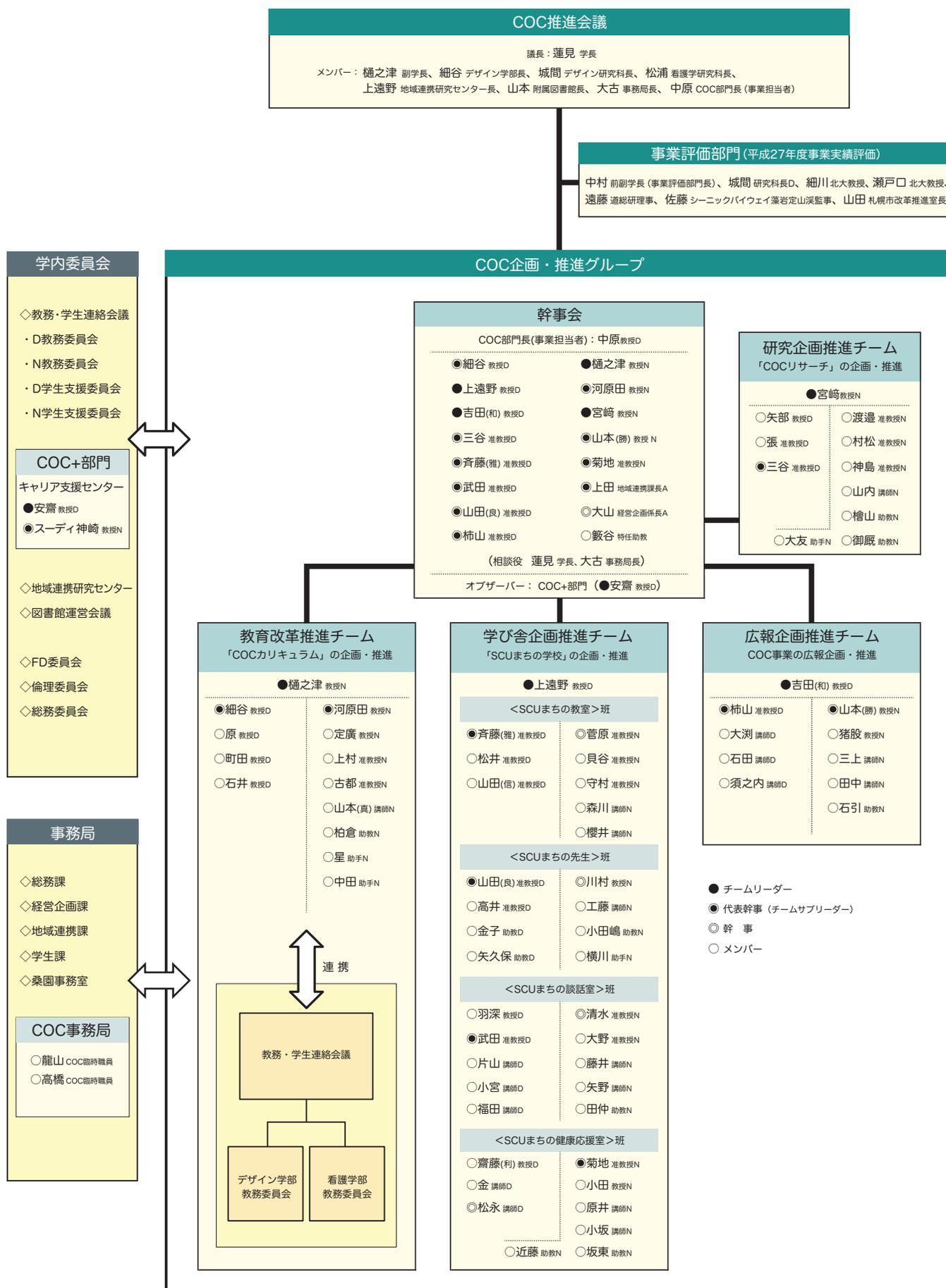
事業推進組織は過年度同様、平成28年度も本学の教職員が一体となって取り組む全学体制としている。とくに教育改革を担う教育改革推進チームについては、全学委員会である教務・学生連絡会議や、両学部の教務委員会メンバーと一致するよう人員配置を行った。また、COC特任教員1名と臨時職員2名の体制でCOC事務局を運営している。

COC評価部門（構成：学内委員2名、学外委員5名）による平成27年度COC事業にかかる事業評価については、平成28年6月に実施し、「概ね良好、ほぼ計画どおり実施されている」と評価された。

さらに、本事業を円滑に進めていくため、札幌市の関係部課長、地域住民と大学が協議、情報交換を行う「COC連絡会議」を設置し、定期的に意見交換を行うこととし、札幌市と地域住民、本学の連携・協力を維持・強化していく体制としている。平成28年度はCOC事業担当者が札幌市南区各地域（連合町内会会長、まちづくりセンター所長）を個別訪問する方式で実施し、4年間のCOC事業の成果報告と今後の課題・展望に係る意見交換を行った。

平成28年度 COC学内組織体制

全教職員の参加により推進



札幌市立大学COCキャンパス「まちの学校」
施設平面図



SCU A組・B組まちの教室
大学の公開講座や授業公開、まちの人が先生になるプロジェクト「まちの先生」の講座等、小学校の教室をそのまま活かした学びの場です。

SCUまちの講堂
フォーラムなど、大人数が集まるイベントを開催できる大きな部屋です。

2F

SCUまちの図書室・談話室
地域の人々と学生の交流の場。学生が場のデザイン・企画・運営を行い、誰もが気軽に立ち寄ることができる場を目指します。

SCUまちの健康応援室
地域の人々が気軽に健康相談に来ることができる場所。看護教員やボランティアスタッフに、悩みごとや健康に関する相談ができます。



1F

SCUまちの職員室
COC事務局職員が常駐しています。

SCUまちのホームルーム
地域活動を行う学生のためのまちなか活動拠点。学生が作業や打ち合わせを行うことができ、ここを拠点に様々なプロジェクトを展開していきます。

III. 活動報告

0. 活動履歴

● 4月

- 7日 スタートアップ演習 (第1回)
 - 10日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会：レゴマインドストーム初級編」(第1回)
 - 14日 スタートアップ演習 (第2回)
地域プロジェクト・概要説明
 - 21日 スタートアップ演習 (第3回)
 - 23日 学び舎・まちの先生班企画「まちの先生企画募集説明会 (夏季開講)」
 - 24日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会：レゴマインドストーム初級編」(第2回)
 - 28日 スタートアップ演習 (第4回)
-

● 5月

- 12日 スタートアップ演習 (第5回)
 - 15日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会：レゴマインドストーム初級編」(第3回)
 - 16日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第1回)
 - 19日 スタートアップ演習 (第6回)
 - 23日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第2回)
 - 26日 スタートアップ演習 (第7回)
 - 29日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会：レゴマインドストーム初級編」(第4回)
 - 30日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第3回)
-

● 6月

- 2日 スタートアップ演習 (第8回) 中間報告会
- 4日 地域プロジェクト・オリエンテーション
学び舎・まちの教室公開講座「エドウィン・ダンと真駒内のまち」(第1回)
- 6日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第4回)
- 10日 学び舎・まちの健康応援室班活動「ちあふる・みなみミニ出張」
- 11日 学び舎・まちの教室公開講座「エドウィン・ダンと真駒内のまち」(第2回)
- 13日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第5回)
- 14日 COC 共同研究審査会

- 15日 学び舎・まちの談話室班企画「卒業修了研究展 巡回展」(~6月30日)
 - 16日 スタートアップ演習(第9回)
 - 19日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会:レゴマインドストーム中級編」
 - 23日 スタートアップ演習(第10回)
 - 25日 学び舎・まちの教室公開講座「エドウィン・ダンと真駒内のまち」(第3回)
学び舎・まちの教室公開講座「親子メカトロ教室『走れ!ロボットカー』」
 - 28日 COC共同研究採択通知
 - 29日 COC評価部門会議
 - 30日 スタートアップ演習(第11回)
-

●7月

- 3日 学び舎・まちの教室公開講座「立体お面工作スタジオ」
 - 7日 スタートアップ演習(第12回)
 - 13日 学び舎・まちの先生班企画「生三味線と共に民謡を楽しもう!」
 - 14日 スタートアップ演習(第13回)報告展示
 - 16日 学び舎・まちの先生班企画「まちの先生企画募集説明会(秋季開講)」
学び舎・まちの先生班企画「自分で浴衣を着て花火大会に行きましょう」(第1回)
 - 17日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会:レゴマインドストーム上級編」(第1回)
 - 18日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会:レゴマインドストーム上級編」(第2回)
 - 21日 スタートアップ演習(第14回)最終報告会
 - 23日 学び舎・まちの先生班企画「自分で浴衣を着て花火大会に行きましょう」(第2回)
学び舎・まちの先生班企画「自分に合ったハミガキをみつけましょう!」
学び舎・まちの健康応援室班活動「まこまない夏フェスタ&災害時に備えて」
学び舎・まちの教室公開講座「昆虫のデザイン」
 - 25日 学び舎・まちの教室授業公開「デザイン特論」(第6回)
 - 26日 学び舎・まちの先生班企画「大風呂敷づくりの魅力~あなたも縫い子さんになりませんか~」
 - 27日 学び舎・まちの談話室班企画「段ボールアート展」(~8月9日)
 - 28日 学び舎・まちの談話室班企画「おおうプロジェクト」(~8月12日)
スタートアップ演習(第15回)
-

●8月

- 2日 学び舎・まちの教室公開講座「まちの健康応援室ミニ出張講座」(第1回)
- 21日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会:WRO札幌大会」
- 26日 学び舎・まちの健康応援室班活動「もりの仲間さわやかクラブ」
- 27日 学び舎・まちの教室公開講座「デザイン・アートと数学」(第1回)
- 31日 学び舎・まちの健康応援室ボランティアミーティング(第1回)

● 9月

- 3日 学び舎・まちの教室公開講座「デザイン・アートと数学」(第2回)
 - 8日 学び舎・まちの健康応援室班活動「ファーストエイド講座」
学び舎・まちの健康応援室班活動「みんなの体力測定」
 - 22日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会：マイコンレーサー初級編」(第1回)
 - 29日 学び舎・まちの健康応援室班活動「“南区健康まつり”健康測定Bコース担当」
学び舎・まちの健康応援室班サポート／学生企画「ふまねっと運動教室」
-

● 10月

- 1日 学び舎・まちの談話室班企画「承德医学院短期派遣研修報告展示会」(～10月22日)
学び舎・まちの教室公開講座「オリンピック・パラリンピックと都市計画」
 - 2日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会：マイコンレーサー初級編」(第2回)
 - 4日 学部連携演習(第1回)
 - 6日 学び舎・まちの健康応援室班活動「ちあふる・みなみミニ出張」
 - 11日 学部連携演習(第2回)
 - 13日 地域プロジェクト・中間報告
 - 18日 学部連携演習(第3回)
 - 19日 広報・まちの学校新聞第5号発行
学び舎・まちの健康応援室班活動「藻岩下元気ハツラツ健康まつり」
 - 21日 学び舎・まちの教室公開講座「健康づくりを市民と共に」
 - 22日 学び舎・まちの先生班企画「菜園(ポタジェ)入門」(第1回)
学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第1回)
 - 23日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会：マイコンレーサー中級編」
 - 25日 学部連携演習(第4回)
 - 30日 学び舎・まちの教室公開講座「『在宅医療』知っていますか？家で最期まで療養したい人に」(第1回)
-

● 11月

- 1日 学部連携演習(第5回)
- 4日 学び舎・まちの教室公開講座「札幌オリンピック・パラリンピック招致に向けて」
- 6日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会：マイコンレーサー上級編」
- 8日 学部連携演習(第6回)
- 12日 「まこ×まち2016 vol.2 ～きて！みて！まこまる～」
学び舎・まちの談話室班企画「段ボールアート展」
学び舎・まちの談話室班企画「ボードゲームの世界に触れてみよう！の会」
学び舎・まちの談話室班企画「まちの談話室班活動報告展示」
学び舎・まちの先生班企画「生活の場のデザイン」
学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第2回)
学び舎・まちの教室公開講座「団地再生の最前線～関西の再生事例から真駒内エリアを考える～」
学び舎・まちの教室公開講座「私の脳は大丈夫？～脳卒中の予防と検査～」

- 15日 学び舎・まちの談話室班企画「おおうプロジェクト」(～11月25日)
学部連携演習(第7回)
- 17日 学び舎・まちの談話室班企画「わらしべ長者の会」
- 19日 学び舎・まちの先生班企画「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」説明会
学び舎・まちの教室公開講座「私の脳は大丈夫認知症～みんなで一緒に考えよう～」
学部連携演習(第8回)
- 20日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会：マイコンレーサー北海道大会」
- 22日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第1回)
- 26日 学び舎・まちの先生班企画「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」(練習第1回)
- 29日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第2回)
-

●12月

- 4日 学び舎・まちの教室公開講座「『在宅医療』知っていますか？家で最期まで療養したい人に」(第2回)
- 6日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第3回)
- 10日 学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第3回)
学び舎・まちの教室公開講座「じょうぶな骨をつくろう！」
学び舎・まちの先生班企画「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」(練習第2回)
- 13日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第4回)
- 17日 学び舎・まちの談話室班企画「まちの小さな音楽会～クリスマスコンサート～」(第1回)
学び舎・まちの教室公開講座「パリの街とデザイン」
学び舎・まちの教室公開講座「初心者のための中国語入門講座～日本語から学ぶ中国語～」
- 20日 学部連携演習(第9回)
学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第5回)
- 21日 学び舎・まちの教室公開講座「まちの健康応援室ミニ出張講座」(第2回)
- 24日 学び舎・まちの先生班企画「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」(練習第3回)
-

●1月

- 7日 学び舎・まちの教室公開講座「冬のメカトロ講座～ロボットカーを走らせよう～」
学び舎・まちの先生班企画「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」(練習第4回)
- 10日 学部連携演習(第10回)
- 11日 学び舎・まちの先生班企画「歯みがきが楽しくなるワクワク教室」
- 17日 学部連携演習(第11回) 発表会
学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第6回)
- 21日 学び舎・まちの談話室班企画「まちの小さな音楽会～新春コンサート～」(第2回)
学び舎・まちの先生班企画「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」(練習第5回)
- 24日 学び舎・まちの教室授業公開「建築環境学特論」(第7回)
- 28日 学び舎・まちの先生班企画「菜園(ポタジェ)入門」(第2回)
学び舎・まちの先生班企画「医学生による救命講習～みんなで学ぼう AED～」
学び舎・まちの健康応援室班サポート/学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第4回)

●2月

- 4日 学び舎・まちの先生班企画「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」(練習第6回)
- 12日 学び舎・まちの教室公開講座「『在宅医療』知っていますか？家で最期まで療養したい人に」(第3回)
- 14日 学び舎・まちの健康応援室班活動「まちの健康応援室ミニ出張講座」(第3回)
学び舎・まちの先生班企画「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」(練習第7回)
- 18日 COC 成果発表会「みんなの発表会」(地域プロジェクト活動成果発表 / 学び舎の活動成果発表)
学び舎・まちの談話室班企画「まちの小さな音楽会～ホワイトコンサート～」(第3回)
学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第5回)
教育・学部連携演習活動報告展示「デザインと看護から地域への提案」(~3月11日)
- 26日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会：シューターロボ編」
学び舎・まちの教室公開講座「真駒内のエリアリノベーションを考える」
-

●3月

- 2日 学び舎・まちの健康応援室ボランティアミーティング(第2回)
学び舎・まちの先生班企画「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」(練習第8回)
- 4日 学び舎・まちの健康応援室班出張活動「藻岩地区健康づくりふれあい交流会」
- 11日 学び舎・まちの健康応援室班サポート 学生企画「みんなで楽しく ふまねっと」(第6回)
学び舎・まちの教室公開講座「こころの健康講座」
- 19日 学び舎・まちの教室公開講座「ロボットづくり講習会：レゴマインドストーム初級編」
学び舎・まちの先生班企画「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」発表会
- 25日 学び舎・まちの先生班企画「菜園(ポタジェ)入門」(第3回)
学び舎・まちの先生班企画「誰でもできる室内スポーツ“カーリンコン”をやってみよう」
-

教 育 = 教育改革推進チーム

研 究 = 研究企画推進チーム

学 び 舎 = 学び舎企画推進チーム

広 報 = 広報企画推進チーム

1. 教育改革推進チーム

チームリーダー：樋之津 淳子

代表幹事：細谷 多聞・河原田 まり子

メンバー：【デザイン学部】石井雅博・原 俊彦・町田 佳世子

【看護学部】定廣 和香子・古都 昌子・上村 浩太・山本 真由美・柏倉 大作・星 幸江

I 本チームの平成28年度の事業概要・目的

本チームは、COCが関連するカリキュラムの編成を目指し、「地域志向科目の増強に向けた検討」と「地域志向科目のシラバスへの反映」の2点を目的として活動を行っている。本年度は、従来科目(スタートアップ演習、学部連携演習)の実施状況と演習の教育効果を点検するとともに、増強を予定する地域志向科目との関連を計画する。

II 本班の平成28年度の役割

地域志向を有する人材育成を、本学の教育カリキュラムに明確に位置付け、それに伴って増強科目を新たに設置することが本班の役割である。本年度は特に、「地域プロジェクト」をカリキュラムに組み入れること、次年度に開講する「学部連携基礎論」の2科目について重点に取り組んだ。

III 平成28年度の活動

1. 事業計画

本年度は、「学部連携基礎論」および「地域プロジェクト」という新たな増強科目の実施に向け、具体的な授業実施計画の立案を行った。その結果、「地域プロジェクト」は本年度から開講し、両学部合わせて17名の学生が履修した。また「学部連携基礎論」については、これまで検討を重ねてきた結果、1年次の「スタートアップ演習」および3年次の「学部連携演習」との教育的な整合性を実現した科目内容となり、本年度にシラバスを作成、来年度前期からの開講に至った。これらの2科目と従来から実施している「スタートアップ演習」「学部連携演習」により、1年次から4年次まで地域志向を目的とした一貫した教育のステップを構築することができた。

2. 主な活動

1) 地域志向カリキュラムの検討

【地域プロジェクト】

平成28年度は、「地域プロジェクト」を正規科目と

して開設した。年間を通して複数のプロジェクトを教員から提示し、各々を受講する学生に適切な指導を行った。プロジェクト実施後は報告会を設け、昨年計画した通りの授業を実施することができた(写真)。



地域プロジェクトの発表会(平成29年2月18日)

一方、在学中に学習の深度に合わせてこの科目を受講できるよう、引き続き追加科目の設計を行った。その結果、平成29年度のカリキュラムからは「地域プロジェクトⅠ(基礎編)」「地域プロジェクトⅡ(応用編)」「地域プロジェクトⅢ(発展編)」の3科目で展開することとし、在学中に地域プロジェクト学習を継続できることとした。

【学部連携基礎論】

学部連携基礎論は、平成28年度新カリキュラムの新科目として、両学部2年次開講の必修科目として設定した。専門教育科目の専門科目「学部連携」に位置づく科目として設定し、本年度入学生が2年次になる平成29年度に初開講となる。科目の内容は、3年次の従来科目「学部連携演習」の基礎となる講義内容を含み、より深い地域学習を行う準備を行う授業に位置づけるよう、具体的な授業内容を決定した。授業の前半では異分野連携に必要なレディネスの獲得を目標に、連携の意義や地域の実践例、地域調査法などの講義を行い、後半ではグループに分かれて、各学部の専門性の見地から担当地域の課題を分析し、連携による課題解決の可能性を検討する構成とした。

無記名自記式質問紙：対象者175名、回収数91部（回収率52%）、有効回答数91部。内訳：デザイン学部63名、看護学部25名、学部記載なし3名。集計方法：4件法で回答。「できた」「ほぼできた」の回答を「達成できた」として集計した。（表1）

演習を通してどの程度到達できたかの12項目の設問に対して、「地域（あるいは南区）への関心を深める」について87.9%、項目全体の平均値は84.6%が達成できたと回答した。エクスカッションや、グループ活動への取り組みから、地域の情報を収集し、地域からプロジェクトのヒントを発見する体験的な学習のプロセスを学んだ。

平成27年度調査票の自由記述から、質的分析により、【地域に目を向ける関心の発芽】など7つの学びを抽出し、地域をフィールドとした多角的な学びが確認できた。スタートアップ演習は、デザイン学部・看護学部の学生が協力し、地域に出向き、眼を向ける機会となっている。この学びから、地域志向を目指す学びの基盤となり、実践的な地域志向の活動へ発展する可能性につながるものとする。（表2）

【学部連携演習】

学部連携演習の授業内容の検証は、昨年度（平成27年度）分に対して行った。本科目受講学生数176名

から有効回答数173部で検証した「到達目標の達成度（自己評価）」（表3）では、平成26年度に行った調査に比べて全ての項目で、到達目標に対する達成度の低下は見られたが、全項目平均では8割の学生が「達成できた」と自己評価していた（平成25年度78.4%、26年度87.8%、27年度81.0%）。演習の中盤に行った同様の調査結果では、ほぼ全ての項目において、演習終了後に目標達成を自覚できている様子が観察できる。これらの結果は、COC初年度に比べ地域との関係性が安定することで、課題に集中でき、本来の学部連携の難しさに気づくことができた結果であると考ええる。COC初年度からの地域との関係づくりから、授業内容や運営方法を改善、再構築した成果であるとする。

3. 評価

新カリキュラムの開始に合わせ「地域プロジェクト」を新規科目として開設することができた。また、「学部連携基礎論」については、授業実施計画を吟味し、平成29年度実施に合わせた準備が整えられた。これらふたつの地域指向性科目は、従来から実施している「スタートアップ演習」や「学部連携演習」と教育上の円滑なつながりを持たせるために必要不可

表1：スタートアップ演習の到達度（自己評価において達成できたと答えた割合）

()内%

到達目標	全体		デザイン学部		看護学部	
	平成27年度 n=128	平成28年度 n=91	平成27年度 n=65	平成28年度 n=63	平成27年度 n=59	平成28年度 n=25
地域（あるいは南区）への関心を深める	116 (90.6)	80 (87.9)	57 (87.7)	57 (90.5)	55 (93.2)	21 (84.0)
地域の情報を収集する	107 (83.6)	77 (84.6)	53 (81.5)	52 (82.5)	50 (84.7)	23 (92.0)
地域から何らかのプロジェクトのヒントを発見する	106 (82.8)	80 (87.9)	51 (78.5)	57 (90.5)	53 (89.8)	20 (80.0)
発見に基づいて、プロジェクトのテーマを明確化する	112 (87.5)	79 (86.8)	53 (81.5)	56 (88.8)	55 (93.2)	21 (84.0)
テーマに基づいた地域におけるプロジェクトの目標を設定する。	109 (85.2)	79 (86.8)	53 (81.5)	54 (85.7)	52 (88.1)	22 (88.0)
目標を達成するためのプロジェクトを計画あるいは実施する。	118 (92.2)	81 (89.0)	57 (87.7)	57 (90.5)	57 (96.6)	21 (84.0)
プロジェクト活動の一連のプロセスを評価する	115 (89.8)	76 (83.5)	54 (83.1)	50 (79.4)	57 (96.6)	23 (92.0)
デザインと看護の専門性の共通点と相違点に関心を持つ	109 (85.2)	70 (76.9)	50 (76.9)	46 (73.0)	55 (93.2)	23 (92.0)
デザインと看護の連携によりプロジェクト活動に取り組み意義が分かる	107 (83.6)	60 (65.9)	53 (81.5)	38 (60.3)	50 (84.7)	19 (76.0)
プロジェクト活動を通してデザインと看護の交流を深める	109 (85.2)	78 (83.5)	50 (76.9)	52 (82.5)	55 (93.2)	23 (92.0)
プロジェクト活動を通じて役割を分担する	118 (92.2)	83 (91.2)	58 (89.2)	56 (88.8)	56 (94.9)	24 (96.0)
一連の活動を通じて満足感あるいは達成感を持つ	116 (90.6)	81 (89.0)	57 (87.7)	55 (87.3)	55 (93.2)	23 (92.0)
平均	112 (87.5)	77 (84.6)	54 (83.1)	53 (83.3)	54 (91.5)	22 (87.6)

欠な科目であったことから、今後の成果に期待ができる。事業の点検評価については、昨年度に引き続き、教育内容の改善状況の確認やシラバスの点検を行い、教育改革が順調に行われていることを確認した。これらのことから、本年度の事業目標は達成できたと考える。

IV 今後の課題

平成29年度は、「学部連携基礎論」実施の初年度となる。3年次の「学部連携演習」の礎となる教育プロ

グラムを提供することで、当該演習がより高度な地域課題に取り組むことができるよう、両科目で教育内容の調整を行う必要がある。また、「地域プロジェクト」に関しても、I(基礎)、II(応用)、III(発展)の段階的な学習を継続できるようカリキュラムの修整を行うことから、今後は、地域学習の意欲を継続させる方策が必要となる。来年度は、こうした課題の解決に取り組むと共に、教育改革の全体像の完成に向けた修整を着実に進めていきたい。

表2:スタートアップ演習の成果

カテゴリー	サブカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
D×N連携によるプロジェクト活動をつうじての視野の広がり	異なる意見を知ることによる視野の広がり	プロジェクト運営の達成と交友関係の広がりに伴う満足感	満足感の自覚
	自己の学部の理解		他学部との交流
	異分野連携の実感		交友関係の深まり
	D×N連携の意識化		プロジェクト運営の達成感
異分野連携の困難感と克服の実感	連携の困難感の実感	人と人との関係性構築を基盤とした協働と役割分担の必要性の理解	他人の意見を尊重するコミュニケーションの大切さ
	連携による問題と課題の抽出		人と人との関係性の構築の必要性
	連携の困難感の克服		グループワークによる協働と役割分担
プロジェクト活動の基本的理解に基づく企画推進の方法	プロジェクト活動の基本的理解		大学生としての主体的な取り組みの必要性の実感
	イベントの運営やプレゼンの手ごたえ	大学生としての学習の取り組み姿勢	
	デザイン学部の企画推進力の認知	主体的な学習姿勢の必要性	
地域に目を向ける関心の発芽	地域の理解の深まり	※アンケートの自由記述の内容をまとめたものである	

表3:平成27年度 学部連携演習 到達目標の達成度(自己評価)

関連する到達目標	全体 (n=173)				デザイン (n=82)				看護 (n=91)			
	中間 n	%	最終 n	%	中間 n	%	最終 n	%	中間 n	%	最終 n	%
1 課題解決プロセスの構成要素を述べる(ミニレクチャー)	124	71.7	147	85.0	57	69.5	59	72.0	67	73.6	88	96.7
2 南区の人々が生活する地域の情報をアセスメントポイントに沿って収集する	150	86.7	148	85.5	66	80.5	57	69.5	84	92.3	91	100.0
3 収集した情報に基づき、デザインと看護が連携して取り組むことが可能な地域の課題(連携課題)を発見する	102	59.0	149	86.1	44	53.7	60	73.2	58	63.7	89	97.8
4 検討結果に基づき、連携課題(テーマ)を明確化、焦点化する	69	39.9	144	83.2	36	43.9	57	69.5	33	36.3	87	95.6
5 明確化・焦点化した連携問題を解決するための目標(成果)を設定する	46	26.6	141	81.5	26	31.7	52	63.4	20	22.0	89	97.8
6 目標を達成するための計画を立案(企画)する	39	22.5	142	82.1	27	32.9	59	72.0	12	13.2	83	91.2
7 計画を実施する(成果を算出する)	20	11.6	138	79.8	12	14.6	57	69.5	8	8.8	81	89.0
8 実施過程で直面した問題を分析する	52	30.1	140	80.9	41	50.0	57	69.5	11	12.1	83	91.2
9 問題を克服するための効果的な方法を提案する	32	18.5	121	69.9	23	28.0	49	59.8	9	9.9	72	79.1
15 課題解決に向けて、作業をすすんで担当する	94	54.3	143	82.7	47	57.3	65	79.3	47	51.6	78	85.7
16 グループメンバーの意見を傾聴する	157	90.8	157	90.8	73	89.0	67	81.7	84	92.3	90	98.9
17 自分の意見を相手にわかりやすく伝える	100	57.8	133	76.9	46	56.1	50	61.0	54	59.3	83	91.2
18 グループメンバーの意見を調整し、合意を形成する	76	43.9	113	65.3	43	52.4	43	52.4	33	36.3	70	76.9
19 それぞれの領域・専門性を超えて、自らの役割を見いだす	77	44.5	146	84.4	41	50.0	65	79.3	36	39.6	81	89.0
平均値	81.3	47.0	140.1	81.0	41.6	50.7	56.9	69.4	39.7	43.6	83.2	91.4

2. 研究企画推進チーム

チームリーダー：宮崎 みち子

代表幹事：三谷 篤史

メンバー：【デザイン学部】矢部 和夫・張 浦華

【看護学部】神島 滋子・村松 真澄・渡邊 由加利・山内 まゆみ

檜山 明子・御厩 美登里・大友 舞

I 本チームの平成28年度の事業概要・目的

地域課題の解決に寄与し、ウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした研究「COCリサーチ」の企画・推進を図る。

II 本チームの平成28年度の役割

1) ウェルネスの研究推進

地域課題の解決に寄与する研究「COCリサーチ」の採択を行ない、「地域志向」の研究推進を図る。

2) 研究基盤の整備・研究関連調査

南区民への調査を基盤としたウェルネス研究を推進する。

III 平成28年度の活動

1. 事業計画

1) ウェルネス研究推進

2) 高齢者ニーズ調査のデータ活用（論文投稿予定）

3) 研究基盤の整備・研究関連調査：

学内教員が実施している「地域志向」の研究動向の実態調査

2. 主な活動

1) ウェルネス研究推進

「COCリサーチ共同研究」学内公募を実施した（公募期間：平成28年4月12日～5月13日）。

本年度は、COC事業対象地域におけるウェルネスに関連し、本学の教育に反映が期待できるものとし、「COC事業の成果検証に関する研究」、「COCキャンパスの効果検証に関する研究」、「南区の賑わい創出に関する研究」、「南区住民のウェルネス支援に関する研究」をテーマに募集した。その結果、2件の応募がありいずれも採択された。採択された研究課題に関しては表1の通りである。これら2つの研究は、今後、研究成果報告書を作成予定である。

2) 高齢者ニーズ調査のデータ活用（論文投稿予定）

研究メンバー変更等の諸事情により、論文投稿は今後の課題とする。

3) 研究基盤の整備・研究関連調査

平成28年度の学内教員が実施している「地域志向」の研究動向の結果は、資料1（28、29頁）の通りである。

表1：平成28年度採択研究課題

No	研究課題	研究代表者：共同研究者	交付額
1	「まちの健康応援室」有資格ボランティアとの協働による健康支援活動の検証	菊地 ひろみ・小田 和美・小坂 美智代・近藤 圭子・原井 美佳・坂東 奈穂美・金 秀敬・松永 康佑	277,000円
2	〈南区住民のウェルネス支援に関する研究〉 南区に住む、就学前の子どもを育てる世帯の、子育てに関するニーズ調査	山内 まゆみ・貝谷 敏子・神島 滋子・スーディ 神崎 和代・檜山 明子・村松 真澄・御厩 美登里・渡邊 由加利・石井 雅博・張 浦華・矢部 和夫・山田 良	350,000円

4) 本チーム活動に関連した平成27年度COC事業評価結果への対応

(1) 平成28年8月16日付のCOC評価部門長からの評価結果は、「研究活動については、指標の達成が低調である。年度を経るごとに予算が削減されるなど理解できる面もあるが、当初の指標設定自体に瑕疵があり、現状では最終年度までに達成することは困難であると考え。指標の見直しを含め再検討していただきたい」であった。

(2) そこで、平成25年度の本事業成果報告書の14頁を基に、COCにおける「地域志向」研究の定義を再確認した。その結果、「地域志向」研究の定義は①「地域志向」教育の効果検証に関する研究、②地域住民のウェルネスに関する研究、③地域資源のポテンシャルを活かして賑わいを創出する研究、④その他の地域志向の特徴が強い研究、の4点であることを確認した。

また、対象とする研究費の区分は、①札幌市や関連団体、民間企業からの受託研究・共同研究、②科研費、③学内の資金(含、COC研究費)、の3点であることを確認した。

(3) これらを確認後、本チームにおける検討結果は次の通りである。

①これまで「地域志向」研究の推進状況の把握にあたり、全教員を対象にアンケート調査として、関連研究の自己申告をしてもらっていた。この場合、教員の申告漏れなどにより、正確な「地域志向」研究の件数を把握できない可能性があった。

②そこで、COC事務局および地域連携課において集積している研究関連情報を元に再調査を実施した。対象は、COC研究費および科研費による研究の他、学内個人研究費、競争的資金・学術奨励研究、競争的資金・共同研究、田村ICT基金、受託研究、共同研究、寄付金による研究等全ての項目とした。また、研究費の区分に応じて計数することとした。

(4) 再調査結果と分析

①本チームにおける再調査結果は、表2の通りである。これらの分析から、札幌市や関連団体、民間企業からの受託研究・共同研究(含、寄付等)は、平成25年度から27年度にかけて半減しているのに対し、科研費は平成25年度と27年度は同一であり、学内研究費は平成26年度が突出しているものの、平成27年度は25年度から1件減とほぼ横ばいを示している。

②研究計画における数値目標は、平成24年度の札幌市および関連団体との受託研究、共同研究の件数を基準として、その1.5倍を目指すとしている(平成25年度の本事業成果報告書の14頁)。科研費や学内資金による研究は、教員の努力による維持増進の可能性はある。しかし、受託研究や共同研究は、委託団体や機関の諸事情によるその件数の増減を考慮すれば、札幌市および関連団体との受託研究、共同研究の件数を基準とした指標は「妥当性あり」とはいいがたいと考える。

③実際、平成25年度の本事業成果報告書の14頁にある本学の受託研究件数の経年変化をみると、

表2：COC事業 関連研究活動実績

研究の種類		平成25年度	平成26年度	平成27年度
外部資金	①受託研究	16	15	12
	②共同研究	2	0	0
	③寄附金による研究	3	0	0
	④その他助成事業による研究	3	0	0
科研費	科学研究費助成事業による研究	9	10	9
	科学研究費助成事業による基盤研究A	1	1	1
(COC)	COC共同研究	該当せず	5	3
学内	①個人研究費による研究	19	20	15
	②学術奨励研究	1	1	2
	③共同研究	4	3	2
	④田村ICT基金による研究	0	0	1
合計		58	55	45

年とともに一様に増加しておらず、全体的に増加傾向にあるものの増減を繰り返していることがわかる。

④また、平成25年度から平成26年度にかけての推移(表2)を見ると、外部資金9件減に対し、科研費・学内資金は各々1件・5件増である。そのため、平成25年度から平成27年度における外部資金による研究件数の推移が、過渡的な変化によるものか、または減少傾向にあることの現われかを判断することは困難である。

(5) まとめ

研究計画において、札幌市および関連団体の受託研究・共同研究を基準とした数値目標は、本学における研究の進捗状況全体を示すには妥当性に乏しい可能性がある。特に、受託研究等の外部資金による研究件数は、一様に増加するものではなく、増減を繰り返す傾向を示しているため、一概に減少していると断定し難い。そのため、より適切な指標を検討する必要があると考える。

3. 評価

- 1) 地域課題の解決に寄与する研究の採択を実施し、「地域志向」研究の推進が図れた。
- 2) 高齢者ニーズ調査結果は、論文投稿に至らなかった。
- 3) 平成27年度COC事業評価結果から、「地域志向」研究に関する再調査および再検討の実施により、今後の数値目標に関する示唆が得られた。

IV 今後の計画

1. ウェルネス研究推進に向け、「地域志向」研究の公募を引き続き実施する。
2. 高齢者ニーズ調査結果の更なる有効活用を検討する。
3. 「地域志向」の研究動向の実態調査を継続し、学内における「地域志向」研究の定着を目指す。

資料1：平成28年度「地域志向」の研究動向実態調査

平成29年2月15日

COC事業 研究企画推進チーム

平成28年度「地域に密着した」研究実態の調査報告

担当：三谷篤史、山内まゆみ、大友舞、繪山明子

1. 目的

COC事業内に留まらず学内で行われている「地域に密着した」研究数や内容を把握することで、今後のCOC活動の参考にする。

2. 調査概要

1) 対象

札幌市立大学教員で、特別休暇中の教員を除いたデザイン学部30名、看護学部43名、計73名

2) 調査期間

平成29年7月1日

3) 調査方法

質問紙調査

質問紙をメールで配信し、メール返信により回答を得た。

調査項目

①所属学部、②地域に密着した研究への取り組み状況、③研究テーマ、④開始年度、⑤終了年度(または継続中)、⑥研究代表者名、⑦対象地域、⑧地域の研究協力者・共同研究者

なお、「地域に密着した」研究とは、COC事業での研究に限らず、「地域との関係の中で調査・分析される」「地域活性等につながる制作研究」「地域との交流実績やワークショップの記録」とした。

4) 分析方法

「地域に密着した」研究への取り組み状況を単純集計した。研究テーマは、内容をカテゴリに分類した。

3. 結果

1) 回答数(回答率)の概要

回答数は49名で、回答率は65.3%であった。学部別内訳はデザイン学部12名(24.4%)、看護学部37名(75.5%)であった。

学部別の回答数は、デザイン学部30名中12名(40.0%)、看護学部43名中37名(86.0%)であった。

2) 「地域に密着した」研究への取り組み状況

「地域に密着した」研究に取り組んでいる教員は36名(73.5%)、取り組んでいない教員は13名(26.5%)であった(図1)。平成27年度との比較を図2に示す。

学部別にみるとデザイン学部では取り組んでいる12名(100%)であった。看護学部では取り組んでいる23名(62.1%)、取り組んでいない14名(37.8%)であった。

教員が取り組んだ研究数の範囲は0件から6件であった。研究に取り組んでいる教員の研究数平均は1.8件(SD1.4)であった。学部別にみると、研究に取り組んでいる教員の研究数は、デザイン学部で平均2.4件(SD2.1)、看護学部で平均1.4件(SD0.7)であった。

開始年度に見た学部別研究数は、デザイン学部では平成18年度2件、19年度3件、21年度1件、22年度1件、23年度2件、26年度1件、27年度5件、28年度8件であり、看護学部では平成25年度が1件、26年度が3件、27年度が3件、平成28年度が最も多く13件であった。

3) 研究の対象地域

研究対象地域を集計した結果、札幌市が最も多く14件であった。札幌市南区における研究数をまとめると13件(28.2%)であり、札幌市内は27件(58.7%)であった。北海道内は44件(95.7%)であった。

4) 研究のテーマ

調査により収集した研究テーマの概観を表2に示す。研究テーマは、地域住民の健康課題に関連した研究、生活環境の改善・充実に関連した研究、地域住民の生きがいに関連した研究、その他(教育、コンソーシアム開発、人材育成、等)に分類された。

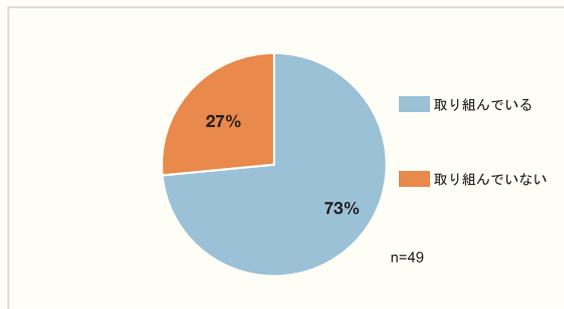


図1 「地域に密着した」研究への取り組み状況 (全体)

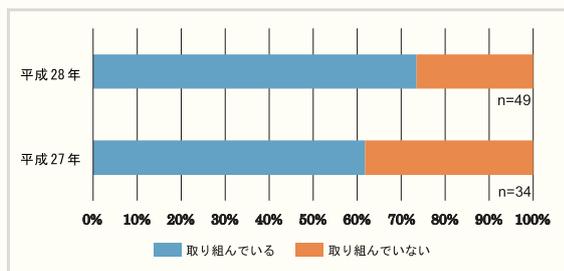


図2 「地域に密着した」研究の取り組み状況 調査年度間の比較

表1 「地域に密着した」研究の対象地域 n=52 (複数回答)

地域	数
北海道	6
札幌市	14
札幌市南区	11
札幌市南区定山溪地区	2
厚真町	1
安平町	1
根室市	1
京極町	1
寿都町	1
南幌町	1
天売・焼尻	1
日高町	1
白老町	1
壮瞥町	1
全国	2
合計	45

表2 地域に密着した研究テーマ概観

テーマ概観	研究テーマ数	
	平成27年度調査	平成28年度調査
地域住民の健康課題に関連	18	15
生活環境の改善・充実に関連	13	18
地域住民の生きがいに関連	1	3
その他(教育、コンソーシアム開発、人材育成、等)	4	7

4. 考察

平成28年度に本学の教員が取り組んだ「地域に密着した」研究実態を調査した結果、回答率は65.3%であり、大学としての研究数や内容を概ね反映する結果と評価した。だが、デザイン学部からの回収数が5割を下回り、本結果の7割強が看護学部、3割弱がデザイン学部によるものであることを鑑みると、看護学部の状況がより強く反映された結とも判断できる。

地域に密着した研究に取り組んでいる教員の割合は7割以上であったことから、研究的視点から事象をとらえたうえで地域に密着した活動に取り組む、といった大学教員としての姿勢が明らかになった。そのような取り組み姿勢は、平成27年度のそれが6割だったことと比較すると、地域に密着した研究に取り組む割合が増加しており、COC事業への取り組みを通して地域志向の研究活動が活性化した可能性を示した。

開始年度の時期について、平成27年度から28年度の開始とする研究が多かったことから、地域に密着した「COCリサーチ」推進の成果であると捉えられる。

研究の対象とした地域は、札幌市南区に限らず、札幌市内を地域とする研究で6割をしめた。本学の設置母体が札幌市立の公立大学であることから、研究成果を札幌市全体に還元しようとする本学教員の意志が伺える結果であった。さらに、北海道内を対象とする研究で9割以上を占めたことから、1つの「地域」の範囲を「北海道」と捉えている大学教員が多いと推察できた。

地域に密着した研究テーマを概観すると、地域住民の健康課題に関連した研究、生活環境に関連した研究、地域住民の生きがいに関連した研究など多岐にわたっていた。平成27年度との比較では、生活環境の改善や地域住民の生きがいに関連したテーマが増えており、地域にうもれている事象をウェルネス型に捉えて取り組みを活発化しようとする、研究活動拡大している姿勢がうかがえた。教育活動に関連した研究も増加しており、COC事業で磨める教育推進の影響も良好にあらわれてきていると推察される。

平成29年度はCOC事業の最終取り組み年度となる。平成29年度は、平成28年度までに7割を超える本学教員が取り組む「地域に密着した」研究活動の成果、効果の客観的評価を目的とした報告等が望まれる。

3.1 学び舎企画推進チーム〈SCUまちの教室〉班

チームリーダー：上遠野 敏

代表幹事：斉藤 雅也

幹事：菅原 美樹

メンバー：【デザイン学部】松井 美穂・山田 信博

【看護学部】貝谷 敏子・守村 洋・櫻井 繭子・森川 由紀

I 本班の平成28年度の事業概要・目的

「まちの教室」班では、平成27年度に引き続き、デザイン学部・看護学部の教員による地域住民対象の「SCUまちの教室（公開講座・授業公開）」を企画・運営した。「SCUまちの教室」は、COCキャンパス（まちの学校）を主な会場として「まちづくり」や「ウェルネス」に関わるデザイン学および看護学の最先端の講義を公開することによって、地域の学びあいの場になることを目的としている。さらに「ウェルネス」に関係する企業や団体との交流を深めるための「まちの教室」班主催の公開講座を実施した。

II 本班の平成28年度の役割

今年度の本班の役割は、①公開講座「まちの教室」の企画・運営、②ウェルネスに関係する企業との交流事業の企画・運営である。

「SCUまちの教室」は、公開講座・授業公開（大学院デザイン研究科）で構成されている。過年度に引き続き、①公開講座は、単発講座、連続講座のいずれか、②授業公開は、正規15回の授業のうち半数未満分を公開する形で企画を募集、実施する方針とした。

ウェルネスに関係する企業との交流事業の企画・運営については、地域連携研究センターを主体として「2016年度SCU産学官研究交流会」を平成28（2016）年11月30日に実施した。人間重視と地域社会への貢献を理念に掲げている本学のデザイン・看護の分野の特色を活かした研究成果を公表するとともに、産学官の連携強化のみならず、新規産業の創出支援や製品化へのマッチングをすることを目的としている。今年度のテーマは「ウェルネス」、「地方創生」、「事例紹介」とした。

さらに、ウェルネスに関係する企業として、福井県福井市で在宅医療・看護・福祉サービスを展開しているオレンジホームケアクリニックの紅谷浩之医師を招き、「まちづくり」の一環として地域医療サービスが行なわれている事例について紹介する公開講

座を実施する（平成29年3月23日に開催予定）。

III 平成28年度の活動

1. 事業計画

前期と後期の2回に分けて、デザイン学部・看護学部の全教員に対して公開講座の企画を募集し審査を行ない、承認された企画について実施する方針とした。授業公開については、大学院デザイン研究科教授会（授業担当教員）で募集した。

また、ウェルネスに関係する企業との交流事業については、産学官連携の研究交流会の他に本班独自の企画内容を班会議で協議し、実施に向けて活動することとした。



エドウィン・ダンと真駒内のまち



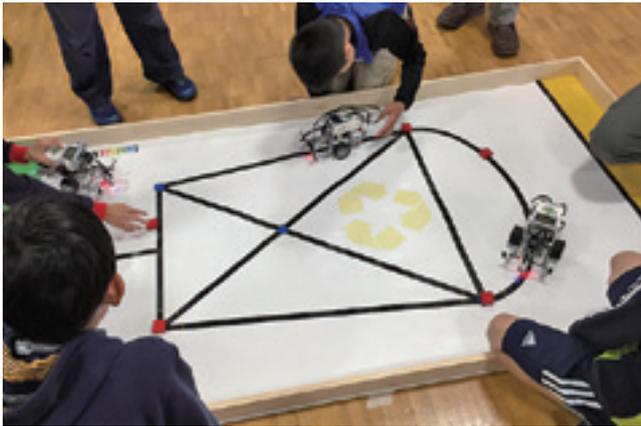
1972年札幌オリンピックと真駒内の想い出



オリンピック・パラリンピックと都市計画



在宅医療知っていますか？



ロボットづくり講習会



デザイン・アートと数学

2. 活動内容

平成28年度は、デザイン学部・看護学部の全教員に対して「SCUまちの教室」の企画を募集し、公開講座は合計21企画、44回（中止の2回を除く）を実施した。開催回数比では、平成27年度の120%となり増えた。授業公開は合計2科目・13回の申請があり、デザイン研究科の授業として公開された。なお、「SCUまちの教室」の開催内容の詳細は、別頁（32、33頁/表2、表3）を参照のこと。

3. 評価

「SCUまちの教室」は、COC事業が終了する平成29年度末までに全教員の開講を目標としているが、表1にCOC事業開始以降の実績（開講済み教員率）を示す。平成28年度末時点で、全学の実施率が56.4%（デザイン学部：64.7%、看護学部：50.0%）である。全学所属教員の約6割が3年半の間に講座を実施している状況である。

表1：「まちの教室」の開講済み教員率の推移

学 部		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
		後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
デザイン	開講済み教員数 (人)	5	5	8	11	16	19	22	
	デザイン教員数 (人)	33	34	34	33	33	34	34	
	開講済み教員率 (%)	15.2	14.7	23.5	33.3	48.5	55.9	64.7	
看 護	開講済み教員数 (人)	3	3	5	5	14	16	22	
	看護 教員数 (人)	44	45	45	43	43	45	44	
	開講済み教員率 (%)	6.8	6.7	11.1	11.6	32.6	35.6	50.0	
大学全体	開講済み教員数 (人)	8	8	13	16	30	35	44	
	全教員数 (人)	77	79	79	76	76	79	78	
	開講済み教員率 (%)	10.4	10.1	16.5	21.1	39.5	44.3	56.4	

※「開講済み教員数」は累積数。地域連携研究センター主催の公開講座の実績は表1に含まない。

今後引き続き、「SCUまちの教室」の企画・開催講座数を増やしていく具体的な方法として、デザイン学部と看護学部の連携講座の呼びかけの他、本学教員と近隣の他大学教員との連携企画などの推進、過年度に実施したサテライトキャンパスでの公開講座の内容についての紹介、学協会・連携団体との共催事業などによる実施を促すなどの措置を講じる予定である。また、講座数を増やすだけでなく、その質を評価するためにアンケート調査による分析を継続して行う。

また、過年度までの「SCUまちの教室」の企画は本学の専任教員が登壇する形式だけであったが、平成28年度からは学外の専門家や市民を専任教員のコーディネーターとして招聘し、学外者と連携して登壇す

る企画について、地域連携研究センターの審議を経たうえで採用する方針とした。さらに、今年度は、班独自の予算を申請して、独自企画（ウェルネスに係る企業との交流事業）としての公開講座を実施した。以上の2点は、今年度の活動内容において評価できる点と言える。

IV 今後の課題

1. デザイン学部と看護学部の連携をさらに高めて、地域と繋がりを作っていく公開講座を企画する。
2. COC事業の終了後を見据えた活動を意識して、引き続き、学び舎企画推進チーム内での連携を図る。

表2：平成28年度「SCUまちの教室」公開講座 実施・申請状況 ※No.の網掛けは開講済み（平成29年2月26日現在）

コース	No.	講座名	企画者・講師	主催/ 共催・合同	開催日	時間	会場	対象	定員	参加者		
										市民	学生	教職員
1	1	ロボットづくり講習会(レゴマインドストーム初級編) 主催)北海道ロボット教育推進会 ※同内容で3回開催	三谷 篤史	共催	4/10(日)	10:00~15:00	COCキャンパス A組、B組、講堂	小学4年生 ~6年生	20	11		1
	2				4/24(日)	10:00~15:00			20	22		1
	3				5/15(日)	10:00~15:00			20	23		1
	4				5/29(日)	10:00~15:00			20	10	1	1
	5	ロボットづくり講習会(レゴマインドストーム中級編) 主催)北海道ロボット教育推進会	三谷 篤史	共催	6/19(日)	10:00~15:00	COCキャンパス A組、B組、講堂	小学4年生 ~中学生	20	25		1
	6	ロボットづくり講習会(レゴマインドストーム上級編) 連続2回講座 主催)北海道ロボット教育推進会			7/17(日)	10:00~15:00			20	10		1
		7/18(月・祝)			10:00~15:00	20			10		1	
	7	ロボットづくり講習会(WRO2016札幌大会) 主催)北海道ロボット教育推進会	三谷 篤史	共催	8/21(日)	10:00~16:00	COCキャンパス A組、B組、講堂	小学4年生 ~中学生	20	10	1	1
	8	マイコンレーサー講習会(初級編) 主催)北海道ロボット教育推進会	三谷 篤史	共催	9/22(木・祝)	10:00~15:00	COCキャンパス	小学4年生 ~中学生	20	11		1
	9	10/2(日)			10:00~15:00	20			13		1	
	10	マイコンレーサー講習会(中級編) 主催)北海道ロボット教育推進会			10/23(日)	10:00~15:00			20	20		1
	11	マイコンレーサー講習会(上級編) 主催)北海道ロボット教育推進会			11/6(日)	10:00~15:00			20	17		1
	12	マイコンレーサー北海道大会 主催)北海道ロボット教育推進会			11/20(日)	10:00~15:00			20	15		1
	13	ロボットづくり講習会(シューターロボ編) 主催)北海道ロボット教育推進会	三谷 篤史	共催	2/26(日)	10:00~12:00	COCキャンパス	小学校 1~3年生	10	10		1
	14	ロボットづくり講習会(タッチセンサーロボ編) 主催)北海道ロボット教育推進会			3/19(日)	10:00~12:00			10			
	15	ロボットづくり講習会(四足歩行ロボ編) 主催)北海道ロボット教育推進会			3/19(日)	14:00~16:00			10			
16	ロボットづくり講習会(ライトレースロボ編) 主催)北海道ロボット教育推進会	3/19(日)			10:00~15:00	20						
17	エドウィン・ダンと真駒内のまち 協力)エドウィン・ダン記念館	中原 宏	主催	6/4(土)	13:30~15:30	エドウィン・ ダン記念館	一般市民、 学生	30	31		2	
18	6/4「エドウィン・ダンと真駒内のまち」 6/11「真駒内の宝物発見ツアーーまち歩きで地域資源を探すー」 6/25「真駒内の未来を考えるーワークショップー」			6/11(土)	13:30~15:30	真駒内地区 (フィールド)		30	24	2	2	
19	6/25(土)			13:30~15:30	COCキャンパス	30		9	4	2		
3	20 親子メカトロ教室「走れ！ロボットカー」 主催)一般社団法人機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門	三谷 篤史	共催	6/25(土)	13:00~16:00	青少年科学館	小学4年生~中学生 および保護者	15	15組 (30名)		1	
4	21 立体お面工作スタジオ	石井 雅博 松永 康佑	共催	7/3(日)	10:30~11:40	青少年科学館	小学生 (保護者同伴)	5	6	8	2	
22	13:30~14:40				5			6	8	2		
5	23 昆虫のデザイン「臭いヤツほど美しい」	酒井 正幸	主催	7/23(土)	13:00~14:30	COCキャンパス	一般市民、 学生	20	15		1	

コース	No.	講座名	企画者・講師	主催/ 共催・合同	開催日	時間	会場	対象	定員	参加者		
										市民	学生	教職員
6	24	デザイン・アートと数学 ～「数」を切り口にさまざまなデザイン・アートを考える～ 8/27「デザインやアートに隠された美しい比率」 9/3「自然の中に潜む造形美と造形模様」	大淵 一博 松永 康佑	主催	8/27(土)	13:30～15:00	COCキャンパス	一般市民、 学生	24	7	1	1
	9/3(土)				13:30～15:00	24			5	1	1	
7	26	まちの健康応援ミニ出張講座	山本 真由美 森川 由紀 石引かずみ	主催	8/2(火)	14:00～15:00	ちあふる・みなみ	子育て中の 母親	20	7		2
	12/21(水)				14:00～15:00	20			5		1	
	2/14(火)				14:00～15:00	20			10		1	
8	29	オリンピック・パラリンピックと都市計画	中原 宏	主催	10/1(土)	13:00～14:30	COCキャンパス	一般市民、 学生	20	13	6	7
9	30	健康づくりを市民と共に！	近藤 圭子	主催	10/21(金)	13:30～15:00	COCキャンパス	一般市民、 学生	20	5	1	4
10	31	「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に。 ～地域住民として何が出来るか？ 地域包括ケアシステムに参画しよう！～	中田 亜由美	主催	10/30(日)	9:30～11:30	COCキャンパス	一般市民、 学生	100	27	1	4
	12/4(日)				9:30～11:30	COCキャンパス	一般市民、 学生	100	26	2	1	
	2/12(日)				9:30～11:30	COCキャンパス	一般市民、 学生	100	19	4	2	
11	34	札幌オリンピック・パラリンピック招致に向けて 「1972年札幌オリンピックと真駒内の想い出」	酒井 正幸	主催	11/4(金)	11:00～12:00	COCキャンパス	一般市民	20	13	1	4
12	35	団地再生の最前線 ～関西の再生事例から真駒内エリアを考える～	山田 信博	主催	11/12(土)	13:00～13:45	COCキャンパス	一般市民	30	17		2
13	36	私の脳は大丈夫？脳卒中の予防と検査	神島 滋子	主催	11/12(土)	11:30～12:15	COCキャンパス	一般市民	20	16		2
14	37	認知症～みんなで一緒に考えよう～	近藤 圭子 坂東 奈穂美	主催	11/19(土)	13:00～15:30	南区 老人福祉センター	一般市民	30	10		2
15	38	じょうぶな骨をつくろう！	原井 美佳 坂東 奈穂美 菊地 ひろみ	主催	12/10(土)	13:30～15:00	COCキャンパス	小学3～6年生 とその保護者	30	4	3	4
16	39	初心者のための中国語講座～日本語から学ぶ中国語～	酒井 正幸 張 浦華	主催	12/17(土)	13:00～14:30	COCキャンパス	一般市民、 学生	20	13	1	2
17	40	パリの街とデザイン	安齋 利典	主催	12/17(土)	10:30～12:00	COCキャンパス	一般市民、 学生	20	13	1	1
18	41	冬のメカトロ講座～ロボットカーを走らせよう～	三谷 篤史	共催	1/7(土)	13:00～16:00	COCキャンパス	小学3年生～中学生 および保護者	12	10	1	1
19	42	真駒内のエリアリノベーションを考える ～自分らしい暮らしを自分でつくるまちづくり～	藪谷 祐介	主催	2/26(日)	10:00～12:30	COCキャンパス	一般市民、 専門家、学生	60	83	8	3
20	43	こころの健康講座 ～あなたもゲートキーパーになりませんか？～	守村 洋	主催	3/11(土)	10:30～12:00	COCキャンパス	一般市民、 専門家、学生	20			
21	44	ウェルネス・ハピネスを高める地域医療×まちづくり	斉藤 雅也	主催	3/23(木)	17:30～19:00	サテライト キャンパス	一般市民、 専門家	40			

表3：平成28年度「SCUまちの教室」授業公開 実施状況

コース	No.	講座名	担当	開催日	時間	会場	対象	定員	参加者		
									市民	学生	教職員
1	1	札幌市立大学学長 大学院授業公開 「デザイン特論」～まちづくりのデザイン論～	蓮見 孝	5/16(月)	18:30～20:00	COCキャンパス	大学院生、 一般市民	20	4	18	1
	2			5/23(月)	18:30～20:00			20	4	18	1
	3			5/30(月)	18:30～20:00			20	5	17	1
	4			6/6(月)	18:30～20:00			20	5	13	1
	5			6/13(月)	18:30～20:00			20	5	18	1
	6			7/25(月)	18:30～20:00			20	9	18	1
2	7	大学院授業公開「建築環境学特論」	斉藤 雅也	11/22(火)	9:00～10:30	COCキャンパス	大学院生、 一般市民	10	6	5	2
	8			11/29(火)	9:00～10:30			10	4	5	1
	9			12/6(火)	9:00～10:30			10	6	4	2
	10			12/13(火)	9:00～10:30			10	4	5	1
	11			12/20(水)	9:00～10:30			10	5	4	2
	12			1/17(火)	9:00～10:30			10	8	4	2
	13			1/24(火)	9:00～10:30			10	7	4	1

3.2 学び舎企画推進チーム〈SCUまちの談話室〉班

チームリーダー：上遠野 敏

代表幹事：武田 亘明

幹事：清水 光子

メンバー：【デザイン学部】羽深 久夫・片山 めぐみ・小宮 加容子・福田 大年

【看護学部】大野 夏代・藤井 瑞恵・矢野 祐美子・田仲 里江

I 本班の平成28年度の事業概要・目的

地域市民のウェルネス（健康で、楽しく、生きがい
が持てる状態）を創出する場を設定し、各種事業やイ
ベントを開催する。

II 本班の平成28年度の役割

事業の目的を達成するために、次の取組みを行った。

- 1) 図書室・談話室の運営
- 2) ぱくりっこ掲示板の運営
- 3) 地域市民や本学教育研究活動の理解を深める
ための展示企画の実施
- 4) 地域市民の交流を促す企画の実施
- 5) コミュニティカフェ運営に関するアドバイスの
実施

III 平成28年度の活動

◆図書室・談話室の運営

1. 活動内容

図書の整備や貸し出しを行った。本年度は書架
の追加整備ができず図書の新規受け入れは行わな
かった。また、各種イベントポスターの掲示などを
行い情報交流の場としての役割を担った。「みんな
の声箱」を設置し、利用者の要望などを受け付けた。

2. 評価

図書室貸し出し利用者数は、平成28年4月1日～
平成29年1月20日までで181名で、継続的に利用
する市民の定着が見られた。情報掲示板には多様な
情報が掲示され、市民の情報共有の場として役割を
担ってきている。利用者の声は多くは寄せられな
かった。地域市民自身による図書室・談話室の運営
の核になる組織の育成は十分には行えなかった。



図書室・談話室の様子



学生がデザイン、製作した書架



情報掲示板

◆ばくりっこ掲示板の運営

1. 活動内容

談話室常設の「ばくりっこ掲示板」の運営を行った。所定の手続きにより物品に関する情報を掲示し、当事者同士で交換を行った。

2. 評価

利用実績数は予想ほど多くはなく、情報が最長の3か月に渡り掲示されたままのものも見られた。同様の掲示板がCoミドリ主催で同館内に設置されていて、今後運営協力するなど調整が必要である。



ばくりっこ掲示板、みんなの声箱

◆地域市民や本学教育研究を活動の理解を深めるための展示企画

1. 活動内容

当班の活動の紹介および本学教育研究活動について市民が理解を深めることを目的として以下のとおり、パネル展示および学生作品の展示を行った。

(1) 「卒業修了研究展」巡回展

(平成28年6月15日～30日)

2015年度卒業修了展の巡回展を行い、本学学生の研究成果の一部を市民向けに展示会を行った。

(2) ダンボール・アート展

(平成28年7月27日～8月11日)

学生のダンボールを素材としたアート作品の展示を談話室で行った。

(3) デザインと看護から地域への提案展示

(平成28年9月23日～10月8日)

本学1年生科目「スタートアップ演習」のグループごとの企画パネルの展示を行った。

(4) 承德医学院短期派遣研修報告会

(平成28年10月1日～22日)

看護学部で1年おきに行っている承德医学院への派遣研修について、交流の様子や学生の学習

状況を広く市民に知らせることを目的として、ポスター展示を談話室で行った。また、学生によるスライドショーと活動報告会を実施した。

(5) 図書室・談話室班活動報告パネル展

(平成28年11月12日)

当班の活動内容を市民に紹介するパネル展を、イベント「まこ×まち2016 vol.2」に連携して講堂で行った。

(6) 「ダンボールによる展示用具」展

(平成28年11月12日)

学生と教員による研究の紹介としてダンボール製のイーゼル、机、椅子などの作品展示を講堂で行った。

(7) 「ダンボールによる展示用具」に乗せる展示サンプルとしての学生作品の展示

(平成28年11月12日)

展示サンプルとして、卒業研究「絵を描く家庭で構成される物語を作る楽しさと読み解く楽しさを探る研究～絵を描くことが苦手になる要素を逆利用したお絵かきの考察～」にかかる展示とヒアリングを行った。



ダンボール・アート展とパネル展示の様子

(8) この他の展示について

当班主催以外では、学内関係者からの申請に基づき「青少年のための科学の祭典 in 北海道2016」における研究成果の展示(7/17)、「花と旅人展」(10/15～29)、「デザインと看護から地域への提案(学部連携演習の報告)」(2/18～3/30)が行われた。

2. 評価

多数の市民が訪れ、本班の活動と本学の教育研究について理解を深め、広く知らせることができた。今後も地域連携型科目などの報告や展示を充実させていく意義は大きい。

◆地域市民の交流を促す企画

1. ボードゲームの世界に触れてみよう！の会

(平成28年11月12日)

(1) 活動内容

子どもから高齢者まで幅広い年齢層でも同じように楽しむことができるゲームを用いて世代間交流に加えて、大学と地域市民の交流の場になることを目指した。講堂を会場に、4～6名程度が座ることができる机の島を3つ程度作り、ゲームを複数用意した。

講師は本学卒業生で、スタッフは本学3年生があたり、来場者に声をかけ、興味を持ったゲームを行った。参加費は無料。ボードゲームは15作品を使用。参加者数は、47名(男性11名、女性12名、子ども24名程度)であった。



ボードゲームの会場の様子

(2) 評価

どの参加者も平均30分程度はゲームを楽しんでいた。中には1時間程度滞在し、複数のゲームを楽しんでいる参加者もいた。人気があったのは、おばけキャッチ、ダブル、スピードカップス、キャプテンリノなど主に子ども向けのルールが簡単なゲームであった。また、一度遊んだゲームを何度も繰り返し夢中になって遊ぶ子どもが多くいた。また、心理戦を楽しむゲームでは、すぐに表情や声に出てしまう子どもが多くおり、それがさらにゲームを盛り上げ、子どもたちの笑い声があふれる会場となっていた。ゲームを通して子どもを中心に幅広い年齢層の方々と交流ができた良い機会となった。

2. おおうプロジェクト

まこまない盆踊(平成28年8月14日・15日)、『ミュークリスタル25周年』(平成28年11月15日～25日)

(1) 活動内容

市民交流の機会を創出することを目的に、札幌

市南区真駒内上町公園で開かれる「まこまない盆踊」のやぐらを覆う大風呂敷づくりを、真駒内団地商店街振興会と共同で企画した。

また、まちの学校の近隣商業施設ミュークリスタルの25周年を記念し、ミュークリスタルに飾る大風呂敷づくりを主体的に企画したおおうプロジェクトの継続的な活動への協力を行った。

以下、主な活動をまとめる。

- 1) 説明会：平成28年7月26日、「大風呂敷づくりの魅力！縫子さんになりませんか?」と題して説明会を実施した。説明会では10名の参加者に対し、大風呂敷づくりを実践している天神山風呂敷工場の縫子さんの協力のもと、魅力紹介や実演を行った。
- 2) 資材準備：大風呂敷づくりに先駆け、家庭にある不要な布、使用しなくなったミシンの提供を呼びかけ、多くの方からご協力を頂いた。
- 3) 大風呂敷づくり：平成28年7月28日～8月12日(11日間)、まちのホームルームにおいて、41名(延べ107名)が大風呂敷づくりを行った。やぐら用大風呂敷、運営テント、ブーステント、テント旗20本、祭り半纏6着、たすき4本が完成した。
- 4) 平成28年8月14日、15日に開催された「まこまない盆踊」において、大風呂敷の設置と縫子さん体験ワークショップを実施し、多くの方に活動をPRした。
- 5) 縫子さん交流会：盆踊りの後日、打ち上げを兼ねた交流会を実施した。大風呂敷づくりを振り返ると共に、次に繋がる企画、アイデアが出された。
- 6) おおうプロジェクトが主体的に企画したミュークリスタルを飾る大風呂敷づくりのための活動場所を提供(平成28年11月15日～25日：計8日間)した。参加者は18名(延べ52名)で、まちの学校を市民交流の場として活用した。

(2) 評価

真駒内団地商店街振興会や天神山大風呂敷工場といった市民の有志を中心に、大風呂敷づくりが行えたことの意義は大きいと考える。大風呂敷の制作は難しい作業を要求しないこと(参加しやすい)、参加者全員で1つの物を作り上げること(成果が目に見える)、製作物を通して地域貢献できることなどから、「地域市民交流の場の設定」に1つの可能性を示したと言える。まこまない盆踊の活動以降に、

有志によりプロジェクトが継続している点からも、市民交流の契機になったことを評価できる。



「おおうプロジェクト」製作の様子



「おおうプロジェクト」参加者の皆さん



まこまない盆踊会場の様子

3. 子ども同士の交流をはかる遊びコーナー

(平成28年11月12日)

(1) 活動内容

卒業研究「子どものコミュニケーション能力を育む遊びの研究」にかかる遊びのワークショップを講堂で行った。



子ども同士の交流をはかる遊びコーナーの様子

(2) 評価

多くの親子が参加し、ゆっくり時間を過ごす活動の場となった。幼児から小学生の参加が多く、子ども同士がコミュニケーションを深める活動を行えたことは、今後のイベントのあり方を検討する上で有意義なものとなった。参加者92名(男性6名、女性33名、子ども53名)

4. わらしべ長者の会(平成28年11月19日)

(1) 活動内容

地域団体「まち班」から、ものの交換を通して交流を促すイベントの企画提案があった。これを受けて、当班でその企画・広報支援を行った。

まち班の企画担当者と打ち合わせやメールのやりとりを行い、企画のブラッシュアップやチラシ制作に関するアドバイス等、まちの学校でのイベントの実施までサポートした。参加者は8名(まち班メンバー6名を含む)であった。

(2) 評価

当日は参加者同士が楽しく交流し、アンケートからも満足度が高いという結果が得られた。それに手応えを感じた企画担当者が、今後も続けていきたいという意向を確認できたことが大きな成果である。一方で、参加者が少なかったことが今後の課題である。

5. 「まちの小さな音楽会」オカリナ・コンサート

(全3回、平成28年12月17日、

平成29年1月21日、2月18日)

(1) 活動内容

地域市民にとって身近な音楽会を定期的を実施し、演奏などの活動をしている地域市民の発表と市民相互の交流の場としていくことにより、音楽

に身近に触れる機会をもち、日々の生活に潤いをもたらすことを目的として行った。演奏は、地域で活動しているオカリナやピアノ、箏、パーカッションなどの音楽家や音楽教室やサークルの協力を得て実施した。

(2) 評価

参加者は、1回目クリスマスコンサートは81名（男性10名、女性65名）、2回目新春コンサートは75



まちの小さな音楽会の様子

名（男性19名、女性53名、子ども4名）の市民が参加し、身近で楽器などの説明もあり子供も参加できるアットホームな音楽会で、3回目ホワイトコンサートにも是非参加したいとの声が多数寄せられ、高い評価を得られた。なお、3回目の参加者は117名（男性19名、女性87名、子ども11名）であった。

◆コミュニティカフェ運営に関するアドバイス

「カフェまこまる」の運営担当が、本年度からNPO法人に変更された。4月から体制や価格の見直しなどを行い、夏からは軽食の配膳などメニューの充実を図った。当班との話し合いにより、イベント情報の相互掲示や混雑時には談話室を活用できるようにするなど改善に努めた。これにより利用者数も増え評判も

良くなっている。

IV 今後の課題

これまでの活動を踏まえて、より市民の声を生かした場づくりと交流活性化を目指して、以下の活動に取り組んでいく。

1. 図書室・談話室の整備・運営は、継続して取り組んでいく。書架の追加設置を検討し、さらに図書のほか視聴覚関係についても充実させていくよう検討する。
2. ぱくりっこ掲示板の運営では、Coミドリとの連携を強め、より効果的に役割を担えるように検討する。
3. 市民活動や本学教育研究活動の理解を深めるための展示企画では、これまでどおり実施してくとともに、常設「まちの美術館」の開設など、学生の作品などを展示し身近に美術作品に触れられる新規事業を検討する。
4. 地域市民の交流を促す企画では、まち班やおおうプロジェクトなどの市民活動グループが生まれてきている。今後も市民グループの活動の場として主催事業の充実と市民活動の活性化を支援していく。南区民センターで活動中のサークルなどの定期的な発表の場としても充実させていくよう検討する。
5. コミュニティカフェ運営に関して、カフェ運営者へアドバイスを必要に応じて継続し、催しなどの情報を共有していく。

平成27・28年度 図書室・談話室 月別利用者数

平成29年度3月1日現在

	平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	開館日数	21	18	22	22	21	21	21	20	19	20	19	23	247
図書室・談話室	女性	33	27	29	52	53	40	38	51	22	17	19		345
	男性	10	12	27	27	22	26	19	47	15	14	14		205
	子ども	10	6	6	58	102	27	21	22	30	31	13		282
	学内	4	4	25	7	7	6	14	10	0	0	154		231
	小計	57	49	87	144	184	99	92	130	67	62	200		1,310
	前年比		37.4%	57.2%	80.0%	96.3%	69.2%	53.8%	72.2%	40.1%	101.6%	70.9%		73.6%

	平成27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	開館日数	-	16	21	23	21	20	23	19	20	20	19	23	225
図書室・談話室	女性	-	49	58	76	74	71	52	61	68	27	109	57	702
	男性	-	44	33	34	34	28	37	32	43	13	98	24	420
	子ども	-	11	44	53	72	31	39	78	28	18	64	37	475
	学内	-	27	17	17	11	13	43	9	28	3	11	5	184
	小計	-	131	152	180	191	143	171	180	167	61	282	123	1781

3.3 学び舎企画推進チーム〈SCU まちの先生〉班

チームリーダー：上遠野 敏

代表幹事：山田 良

幹事：川村 三希子

メンバー：【デザイン学部】高井 真希子・金子 晋也・矢久保 空遥

【看護学部】工藤 京子・横川 亜希子(旧メンバー：小田嶋 裕輝)

I 本班の平成28年度の事業概要・目的

地域住民が講師となり講座等を行う「まちの先生」事業を「COCキャンパス まちの学校」で実施する。また、講師となる住民の発掘及び運営を住民に委ねていくための制度設計を行う。

II 本班の平成28年度の役割

平成28年度の役割は、COC事業終了後も地域住民が主体となって「まちの先生」を継続するため、昨年度発足した『まちの先生運営委員会』の会則や企画募集要項、企画書も改訂することで、今まで以上に市民が参加しやすいものにした。

III 平成28年度の活動

1. 事業計画

- 1) 市民が提案してくる講座を市民が自主的に運営し、積極的に広げ実施するためのサポート。
- 2) 「まちの先生」夏季・秋季・冬季講座の募集と実施をする。

2. 主な活動

1) 「まちの先生」運営委員会の運営及び企画サポート

まちの先生班、COC特任教員と市民構成員による計3名と共に月に1回(4月～翌年3月)計12回、『まちの先生運営委員会』を開催した。委員会では「まちの先生」の企画者やオブザーバーの参加もあり、市民に開かれた会議の場とした。

2) 平成28年度「まちの先生」講座募集説明会

今年度は4月と7月の2回、「まちの先生」講座募集説明会を実施し、随時募集の企画も含め10件の企画申請があった。(写真1)

3) 平成28年度「まちの先生」の開講

今年度は10件の企画申請の中から連続講座を含め全13回が実施された。
(平成29年1月18日現在)



写真1：まちの先生企画募集説明会

「まちの先生」講座

- 生三味線と共に民謡を楽しもう！(写真2)
日時：平成28年7月13日
講師：佐藤 裕子氏 参加人数：9名
- 自分で浴衣を着て花火大会に行きましょう(1回目)
日時：平成28年7月16日
講師：小池 みつえ氏 参加人数：3名
- 自分で浴衣を着て花火大会に行きましょう(2回目)
日時：平成28年7月23日
講師：小池 みつえ氏 参加人数：3名
- 自分に合ったハミガキを見つけましょう！
日時：平成28年7月23日
講師：津金澤 秀樹氏 参加人数：3名
- 大風呂敷づくりの魅力！あなたも「縫子さん」になりませんか
(7/26～8/12 談話室班企画「大風呂敷づくり」と連携)
日時：平成28年7月26日
講師：木野 哲也氏/安斎 伸也氏/箭内 晶子氏/
渡辺 ひろみ氏/長谷川 朋美氏/小林 元氏
参加人数：10名
- 菜園(ポタジェ)入門(第1回)(写真3)
日時：平成28年10月22日
講師：藤井 純子氏 参加人数：8名
- 生活の場のデザイン

日時：平成28年11月12日

講師：小林 元氏 参加人数：35名

●北海道を唄おう、踊ろう、演じよう

日時：平成28年11月19日

講師：佐藤 裕子氏 参加人数：5名

練習会：11/26、12/10・24、1/7・21、2/4、3/4 発表会：3/19

●歯みがきが楽しくなるワクワク教室(写真4)

日時：平成29年1月11日

講師：津金澤 秀樹氏 参加人数：11名

●医学生による救命講習

日時：平成29年1月28日

講師：青木 一毅氏 参加人数：5名

●菜園(ポタジェ)入門(第2回)

日時：平成29年1月28日

講師：藤井 純子氏 参加人数：17名

●「カーリンコン」をやってみよう(予定)

日時：平成29年3月25日

講師：佐賀 信義氏

●菜園(ポタジェ)入門(第3回)(予定)

日時：平成29年3月25日

講師：藤井 純子氏



写真2：生三味線と主に民謡を楽しもう！



写真3：菜園(ポタジェ)入門

3. 評価

事業計画の項目を実施し、本年度の目的は達成したと言える。COC事業終了後を見据えた「まちの先生」の運営に向けて、運営委員会会則の改訂や企画についての協議も行われている。運営委員会の開催については、運営委員だけでなく企画者や多数のオブザーバーの参加もあり開かれた議論の場となった。また、談話室班企画「大風呂敷づくり」との連携や、「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」の連続開講では参加者同士の交流が促進された。さらに、次年度に向けて、菜園入門では、次年度も継続して活動することが予定されており、まちづくりの核となる人材の発掘という目標に対し一定程度の成果が得られた。



写真4：歯みがきが楽しくなるワクワク教室

IV 今後の課題

COC事業終了後を見据えて、運営委員会を市民構成員が自立して運営できる体制を確立すること。まちの先生運営委員会の開催告知や開講案内について、情報周知の方法を整理すること。また、「まちの先生」を契機に、講師が中心となって活動していく制度の整備、さらなる人材発掘が課題である。

3.4 学び舎推進チーム〈まちの健康応援室〉班

チームリーダー：上遠野 敏

代表幹事：菊地 ひろみ

幹事：松永 康佑

メンバー：【デザイン学部】齋藤 利明・金 秀敬

【看護学部】小田 和美・原井 美佳・小坂 美智代・坂東 奈穂美・近藤 圭子

I 本班の平成28年度の事業概要・目的

「まちの健康応援室」班は、地域の方々が生涯にわたり、健康で、楽しく、生きがいがある状態である「ウェルネス」支援に向けた取り組みの一環として、地域の方々の健康や生活に関連したニーズに応える活動を行うことを目的に、平成27年9月に開室した。看護学部をもつ本学の専門性を活かし、地域の有資格ボランティアと大学教員が協働してCOCキャンパスを拠点にして運営し、相談活動を継続している。平成28年度は、「まちの健康応援室」のアウトリーチ活動を積極的に進めて「まちの健康応援室」の活動範囲を拡大すると共に、看護学部学生が「まちの健康応援室」に参加して地域の方々と交流し、学生の学びの場とすることを目的とした。

「まちの健康応援室」の事業目的は、地域の方々が気軽に立ち寄って健康や暮らしの相談ができる場所を作り、行政や地域包括支援センター、町内会等と連携を図りながら、地域の保健・介護予防のネットワークのひとつとして機能することである。

II 本班の平成28年度の役割

「まちの健康応援室」があるCOCキャンパスは札幌市南区真駒内地区に位置しており、近隣にマンション、団地等が多い地域である。「まちの健康応援室」の利用者は真駒内地区の住民が多く、広域の南区内では来室者が限定的であることから、活動範囲を真駒内地区に限定せずに南区全体に広げ、「まちの健康応援室」の活動を届けることに力を入れた。

「まちの健康応援室」には保健医療専門職の資格を有するボランティアが参画しているので、アウトリーチ活動や公開講座の活動を通じて、有資格ボランティアの知識やスキルを活かした活動を継続することを検討した。また、看護学部の学生が「まちの健康応援室」の活動への参加を通じて、地域住民と交流し、コミュニケーションを通じて、生きた学びの場として「まちの健康応援室」を提供し、活用できるよう支援することを役割とした。

III 平成28年度の活動

1. 事業計画

事業計画は3つの柱からなる。

- 1) 活動地区を真駒内地区に限定せず、アウトリーチ活動を通じて、活動範囲を拡大した。「まちの健康応援室」の広報活動を継続し、地域住民に広く知ってもらおうと共に、各地区の町内会や地域包括支援センターなどからの要請にはできる限り協力して、健康イベント等に出向く機会を増やした。また、隣接する札幌市南区子育て支援センターや子どもの体験活動を支援するNPO法人と連携した活動を計画した。
- 2) 有資格ボランティアが、保健医療専門職の知識やスキルを活かして活動を継続できるようにした。通常の活動の来室者への健康チェックや健康支援活動に加え、アウトリーチ活動で出向くイベント等での市民の健康相談への対応や、「まちの健康応援室」が企画する公開講座の運営や講師役として参画する機会を増やすこととした。平成28年度は、出張活動を6回、公開講座を3回計画した。
- 3) 学生が、学びの場として「まちの健康応援室」で活動し、市民の健康に対する意識や志向を感じられるように支援した。履修科目「地域プロジェクト」(自由科目、1～4年次開講)で、「まちの健康応援室」を選択した学生がイベントや公開講座のボランティアとして参加し、通常の「まちの健康応援室」の開室時にも参加できるようにした。

この他、「まちの健康応援室」が安定的に活動を継続していくための条件整備や、「まちの健康応援室」が地域住民の健康支援に果たす役割の検証にも着手した。

2. 主な活動

1) 有資格ボランティアとの協働による健康応援室運営状況

平成28年12月末の時点で15名の有資格ボランティアが登録しており、そのうち11名が活動中である。ボランティアが保有している資格は、看護師、保健師、薬剤師、管理栄養士、健康運動指導士である。退職した後に、専門職としての知識やスキルを地域の人々の健康づくりに役立てたいとして参加する看護職や、現役で働きながら休日等を利用して参加する専門職者など、様々である。



まこ×まち2016 vol.2で賑わう「まちの健康応援室」の様子

「まちの健康応援室」開室の際には、原則2名ひと組で活動し、「日報」や「相談記録」に運営状況を記載して、情報共有や継続支援につなげている。また、ボランティアミーティングを年に2回開催し、有資格ボランティアと教員の親睦を図る共に活動方法の改善について意見交換を行っている。

有資格ボランティアとして活動する市民の他に、本学助産学専攻科の助産師資格を持つ教員が、ボランティアとして「まちの健康応援室」に参画している。6名の教員が交代で月1回「まちの健康応援室」を担当する他、隣接する札幌市南区子育て支援センターに出向いて、乳幼児や母親からの相談に応じたり、子育てに関する講話活動を行っている。

表2：アウトリーチ活動

	時 期	活 動
出張活動	平成28年 7月23日(土)	「まこまない夏フェスタ&災害に備えて」
	8月26日(金)	「もりの仲間のさわやかクラブ ハツラツ介護予防！」
	9月29日(木)	「みんなでみに区健康まつり 2016」
	10月19日(水)	「藻岩下元気ハツラツ健康まつり」
	11月12日(土)	「まこ×まち 2016 vol.2」
公開講座	平成29年 3月 8日(水)	「藻岩地区健康まつりふれあい交流会」
	平成28年 9月 8日(木)	「ファーストエイド講座」
	11月19日(土)	「認知症サポーター養成講座」
	12月10日(土)	「じょうぶな骨をつくろう」

2) 健康応援室の開室状況(表1)

「まちの健康応援室」は火曜日から土曜日の13:00～16:00(不定期開催、祝日・年末年始を除く)で活動しており、毎月「開室カレンダー」を作成し来室者やイベント時に配布して周知している。「まちの健康応援室」には、血圧計、骨密度測定器、体組成計、握力計、足指力測定器を常備しており、これらの機器で来室者の健康チェックを行うと共に、健康や介護の相談に応じている。

平成28年度の開室状況としては、1週に2～4日、ひと月に8～14回開室し、4月～12月末までの開室のべ日数は96日となっている。また、来室者のべ人数は174名であり、1日あたりの来室者は平均1.81名となっている。

表1：平成28年度「まちの健康応援室」来室者数

	開室のべ日数(日)	来室者のべ人数(人)	1日あたりの来室者数(人)
4月	14	32	2.29
5月	13	19	1.46
6月	13	28	2.15
7月	11	13	1.18
8月	9	18	2.00
9月	9	14	1.56
10月	11	33	3.00
11月	8	13	1.63
12月	8	4	0.50



来室者の利用目的としては多くが「健康チェック」であり、定期的に来室されるリピーターも増加している。また、「健康相談」で来室された方の相談内容としては、介護問題、育児相談、測定値・健康診断結果等に基づく生活改善などであった。

3) アウトリーチ活動

アウトリーチ活動として、出張活動6回、公開講座を3回実施した。(表2)

(1)「まこまない夏フェスタ&災害に備えて」

- 実施日：平成28年7月23日(土)12:30～15:00
- 会 場：まこまる体育館

- 担当者**：菊地ひろみ 近藤圭子(教員)
大賀浩子、藤根美智子(有資格ボランティア)
埴祐美(COC Student Plaza)

●**実施状況**：札幌市主催・真駒内地区連合会共催で開催され、「まちの健康応援室」班は近隣の医療法人と合同で体組成と骨密度の測定コーナーを担当して健康チェックを実施し、希望者に健康相談を実施した。

●**成果**：地域の方たちを中心に参加者は80～90名だった。COC Student Plazaに所属する看護学部学生も参加して共同で健康チェックにあたり、地域住民との交流の機会にもなっていた。健康チェックの内容として骨密度と体組成は参加者の関心が高く、測定結果の説明を希望する人が多かった。また、健康応援室のPRの効果も期待された。



「まこまない夏フェスタ&災害に備えて」活動の様子

(2)「もりの仲間のさわやかクラブ
ハツラツ介護予防！」

- 実施日**：平成28年8月26日(金)10:00～14:30
- 会場**：札幌市南老人福祉センター
- 担当者**：小田和美、坂東奈穂美(教員)
星賀千鶴子、森川潮、山村郁子(有資格ボランティア)

●**実施状況**：札幌市南区の芸術の森地区と石山地区の住民を対象に、健康に関するイベントが開催された。実行委員会からの協力依頼を受けて、「まちの健康応援室」出張企画として、骨密度の測定および健康相談を行った。来場者数102名中83名が骨密度の測定と健康相談を受けた。

●**成果**：主催者が行った来場者からのアンケート

結果から、骨密度測定が最も関心が高く、好評であったとの報告があった。したがって、骨密度測定による健康相談は、骨粗鬆症の予防という住民のニーズに合う出張活動として成果があった。また、今回のイベント参加がきっかけとなり、次年度の同イベントと、別の地区での健康イベントへの参加を依頼された。打ち合わせ・実施・反省会といった一連のプロセスに参加することで、まちの健康応援室の活動を、地域住民に理解してもらう機会となった。

(3)「ファーストエイド講座」公開講座

- 実施日**：平成28年9月8日(木)13:00～15:30
- 会場**：NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ
- 担当者**：原井美佳、坂東奈穂美(教員)
- 実施状況**：NPO法人さっぽろAMスポーツクラブ 子どもの体験活動の場Coミドリが主催する「子どもの外遊びに関わるスタッフ育成講座③ファーストエイド講座」について協力依頼を受けて運営協力した。講師は、北海道災害看護支援コミュニケーション(EZO看)顧問 太田 晴美氏に依頼した。



「ファーストエイド講座」公開講座の様子

参加者は11名で、その背景は、学童保育や子どもの外遊びに関わる活動を支援されている方、元保育士、子育て中の方であった。参加者は、講話や救急用品に対して質問をしながら、ファーストエイドについての基礎的知識、傷病時の固定や包帯法の基礎を演習した。教員は、事前に事業実施者および講師と打ち合わせを行い、講師招聘の調整を行った。当日は、場の雰囲気形成のための参加者への声かけ、講師の問いかけに対する返答の促進、物品紹介のサポート、演習の補助(包帯

法)を行い、講座が効果的に進行するための連携を行った。

●**成果**：参加者は、講話を通して包帯や装具に触れ、また、身近なものがファーストエイドに利用できるという驚きに触れ、基礎的知識と処置の実際を演習された。終了後には、これからの生活や活動に役立つ知識を得られてよかったという感想が聞かれたことから講座の目的は達成されたと考える。今回は主催者の協力依頼のもと運営をサポートする形での協力であったが、今後は、今回の取り組みを様々な対象に応用し、実施者として開講していくことが可能と考える。

(4)「みんなでみに区る健康まつり2016」

●**実施日**：平成28年9月29日(木)10:00～12:30

●**担当者**：菊地ひろみ、近藤圭子、小田和美(教員)

岡崎良子、巢内たまき(有資格ボランティア)

「地域プロジェクト」履修学生1年生2名

●**実施状況**：札幌市健康まつり実行委員会主催で年1回実施している「みんなでみに区る健康まつり」に、札幌市立大学も主催団体として参加して2年目となった。例年、健康測定は大人気で混乱しがちであったため、今年度は2コースに分けて、葉書による完全予約制となった。「まちの健康応援室」は、独自に健康測定を行った昨年と異なり、他の主催者団体と協働で健康測定Bコース(骨密度、体組成、肺年齢の測定)を担当し、このうち骨密度計1台と体組成計1台を担当した。健康測定Bコースは、本学COCキャンパスのあるまこまる特設会場を第2会場として開催された。63名の住民が事前予約に登録し、参加された。

●**成果**：骨密度計と体組成計を、有資格ボランティア各1名と、教員各1名が担当したため、健康測定と測定後の結果説明をスムーズに行うことができた。また、測定結果の見方についての質問や、測定後の結果説明を契機に日頃の食事や運動についての健康相談にも対応した。事前予約制で、来室者は時間に均等に配分されていたため、大きな混乱はなく、余裕をもって健康相談を行うことができた。また、後日、健康応援室に来室して、健康まつりで受けられなかった健康測定を行う来室者もあり、健康まつりは健康応援室の広報のよい機会となっていた。さらに、本事業には、2名の地域プロジェクト受講学生が測定や健康相談の補助として参加し、地域住民への健康サービスについて学ぶ場であった。

(5)「藻岩下元気ハツラツ健康まつり」

●**実施日**：平成28年10月19日(水)

13:00～15:30

●**会場**：札幌市藻岩下地区会館

●**担当者**：近藤圭子、坂東奈穂美(教員)

木室優紀(有資格ボランティア)

●**実施状況**：藻岩下地区社会福祉協議会が主催する南区藻岩下地区の住民を対象とした健康イベントに、実行委員会からの協力依頼を受けて参加協力した。骨密度測定および健康相談のコーナーを担当した。骨密度測定および健康相談を受けた地域住民は43名だった。

●**成果**：「まちの健康応援室」で使用している骨密度測定機器は、手首で測定ができることで、気軽に参加できるという、来場者からの声があった。藻岩下地区の住民に対し、健康に関心を高める機会を提供する成果があったと考える。また、子ども連れの参加者に対しては、タッチパネルでの操作やその場で結果が印刷されることで、子どもも楽しく測定に参加できた。骨密度測定機器の操作を通して、子供が健康に対する意識を高める可能性を考えるきっかけとなった。

(6)「まこ×まち2016」

●**実施日**：平成28年11月12日(土)

11:30～14:30

●**担当者**：菊地ひろみ、小田和美(教員)

飯田昭子、吉田美智代(有資格ボランティア)

●**実施状況**：まこまるのイベントとして健康応援室を拡大開室した。2名の教員と2名の有資格ボランティアが、健康測定(血圧測定、骨密度測定、体組成測定)と健康相談を行った。担当者4名が臨機応変に測定と結果説明を担当した。

●**成果**：来室者は計78名で、骨密度と血圧は78名全員が測定を行ったが、体組成はうち57名の参加であった。来室者の男女比は約3対7で、女性が圧倒的に多かった。

午前中に来室者が多かったが、測定場所が3か所であったため、混雑具合を見ながら誘導することができ、スムーズな測定に繋がったが、結果説明には十分な時間をとることはできなかった。また、血圧の高い来室者が多かったため、血圧測定を複数回行う必要があり、血圧測定に時間がかかった。しかし、午後は、来室者が途切れることはなかったが、待ち時間なく健康測定を行うこと

ができ、結果説明にも十分な時間をとることができ、来場者から満足の声が寄せられた。

(7)「認知症サポーター養成講座」

●実施日：平成28年11月19日(土)

13:00～15:30

●担当者：坂東奈穂美 近藤圭子(教員)

大賀浩子、松澤道子(有資格ボランティア)

●会場：札幌市南老人福祉センター

●実施状況：地域の方々と認知症について共に考え、認知症を地域で支えていくため取り組みとして、札幌市南区第1地域包括支援センターと共催で実施した。開催前に参加者の健康チェックとして体組成と骨密度を測定した。講師は「まちの健康応援室」班の教員が担当し、認知症クイズなどを織り込みながら進めた。

●成果：地域の方々10名の参加があった。認知症に関する正しい知識と対応について講話を実施した。健康チェックの測定結果と関連して予防的な視点で生活の振り返りを促した。またクイズを行って参加型としたことで、楽しい雰囲気での理解を深めることができ、参加者アンケートから満足の結果が得られた。



認知症サポーター養成講座の様子

(8)「じょうぶな骨をつくろう」公開講座

●実施日：平成28年12月10日(土)

13:30～15:00

●会場：COCキャンパスまちの講堂

●担当者：菊地ひろみ、原井美佳、坂東奈穂美(教員)
大村朋江(有資格ボランティア/管理栄養士)、「地域プロジェクト」履修学生1年生3名

●実施状況：事前申し込み者4名(小学校4年生2名、その保護者2名)の参加のもとに開催した。参加者は骨密度と体組成を測定し、教員・ボランティアはデータの理解と生活上の工夫についてファシ

リテートを行った。講話「じょうぶな骨をつくろう！」は、料理カードを用いたワークショップを交え双方向に展開し、質疑応答も活発にされた。

●成果：参加者のアンケートの結果から満足度の高い講座となったことが伺え、開講の目的は達成したと考える。しかし、今回、近隣の小学校の在校生にチラシを配布したものの参加者が2組の親子(4名)にとどまり、小学生にとって土曜午後に参加したいという動機づけをもたらすものではなかったことが課題である。関心ある親子は遠方からでも参加希望があるので、今後も実施するとすれば、広報さっぽろなどの媒体を用いて広範囲に周知するのが適切であろう。また、今回の講座開催により、その運営手法を獲得することができたので、今後は、対象者を成人、高齢者に広げるなど活動の幅を広げることが可能であると考えられる。



「じょうぶな骨をつくろう」公開講座の様子

4) 子育て支援センター「ちあふる・みなみ」との連携事業(表3)

「ちあふる・みなみ」は、「まちの健康応援室」に隣接する札幌市南区保育・子育て支援センターの施設である。施設を利用する乳幼児や母親からの保育や健康に関する相談ニーズへの対応として、有資格ボランティアや本学助産学専攻科の教員による「まちの健康応援室」活動日のうち、隔月で「ちあふる・みなみ」に出向き、講話と相談活動を行っている。

●成果：母親からの質問や相談のうち、保育士

の対応が難しい内容のものなどを中心に講話のテーマを設けた。参加者は4名(2組)～10名(5組)で、毎回、子どもをあやしなごらの自由な雰囲気で行われた。参加した母親達の反応は良好で、ミニ出張以外の「まちの健康応援室」の助産師担当の日に相談に来室する母子もおり、子育て世代への支援活動につながっている。



「ちあふる・みなみ」ミニ出張の様子

表3：「ちあふる・みなみ」ミニ出張活動状況

	実施日	担当者	テーマ
第1回	6月10日(金) 14:00～15:00	望月 幸子 (有資格ボランティア) 大友 舞 (教員)	「赤ちゃんのスキンケア」
第2回	8月2日(火) 14:00～15:00	山本 真由美 (教員)	「母乳育児の悩み解決します！」
第3回	10月6日(木) 14:00～15:00	宮崎 みち子 (教員)	「すてきなあなたへ」
第4回	12月21日(水) 14:00～15:00	森川 由紀 (教員)	「冬に多い赤ちゃんの感染症と予防」
第5回	2月14日(火) 14:00～15:00	石引かずみ (教員)	「歯のおはなし」

5) COC Student Plaza (看護) 活動支援

健康づくりサークル「ふまねっと」サポート

COC Student Plazaで活動する看護学部学生が中心となって、「健康づくりサークル」を立ち上げた。「ふまねっと運動」*を活動の中心として、誰でも気軽に参加し、健康づくりを行う場を提供することで、地域住民の健康維持と新たなコミュニケーション創出につなげることを目的にした。

「まちの健康応援室」では、学生の「健康づくりサークル」の活動計画について助言を行い、サークルで使用する「ふまねっと」を購入・準備し、活動の環境を整えた。サークル活動時には学生と参加者の活動を見守り、参加者の体調不良や怪我の発生に備えて、「まちの健康応援室」を開室しながら見守る体制を整えた。また、学生だけでは難しい町内会への回覧版を用いた広報活動を行った。

「健康づくりサークル」は9月に体験教室を実施した後、毎月1回、定期的に活動を継続している。

*「ふまねっと運動」: NPO法人地域健康づくり支援会ワンツースリーにより開発された、全身のバランスや認知機能を向上させることを目的とした運動学習プログラムである。50cm四方のマス目のできた網を床に敷き、マス目を利用したステップを間違えないように歩く運動で、道内外300以上の施設や病院で取り入れられている。 HP: <http://www.lto3.jp/>

●活動実績:

- 第1回:平成28年 9月29日(木) 11:00～12:00
- 第2回:平成28年10月22日(土) 13:00～15:00
- 第3回:平成28年11月12日(土) 13:00～14:00
- 第4回:平成28年12月10日(土) 13:00～15:00
- 第5回:平成29年 1月28日(土) 13:00～15:00
- 第6回:平成29年 2月18日(土) 13:00～15:00
- 第7回:平成29年 3月11日(土) 13:00～15:00(予定)

●企画者:COC Student Plaza 埴祐美(看護学部3年)、山崎魁斗(看護学部2年)

●運営学生:朱田理紗、菊地綾香、湯村香純、秋原麻里(看護学部3年)、成田真緒、宮本果歩、山口可那子(看護学部2年)

●講師:ふまねっとサポーター3名

●会場:まこまる内「まちのホームルーム」他

●内容:「健康づくりサークル」の企画、運営は

全て学生が行っている。これまで実施した「健康づくりサークル」全4回の参加者は4名～18名だった。企画者のCOC Student Plaza(看護)学生は、市民のふまねっとサポーターに講師として支援を受けながら、自分達でふまねっとを運



営できるように段階的に取り組んでいる。「まちの健康応援室」は、「健康づくりサークル」の実施日に合わせて開室し、サークルにはメンバーとして参加しながら活動を見守り、参加者の体調不良や転倒等に備えて対応可能な体制を整えた。

●**成果**：学生が積極的に参加者に話しかけるなどして、順番を待つ間もあちこちで楽しい会話が聞かれた。学生と参加者との交流は、直接的な運動の効果もさることながら、参加者の気持ちにも働きかけているようだった。



「健康づくりサークル」活動の様子

3 評価

平成28年度は、「まちの健康応援室」の従来の開室活動に加え、地域の行政や地域包括支援センター、町内会、福祉団体などとの連携を強化し、地域の中に入って活動するよう取り組んだ。アウトリーチ活動を通じて、関係者、団体とのネットワークが形成されており、次回以降の協力依頼も受けている状況である。

通常開室では、4月から12月までの9か月間でのべ174名が来室し、健康チェックや健康相談活動を行った。通常の開室日に利用する市民は数名程度で、費用対効果の点では一層の広報活動が必要である。来室者の利用目的としては多くが「健康チェック」であり、イベント参加から定期的に来室するリピーターも増加している。毎月来室してボランティアとの会話を楽しむ高齢者もいる。一方、アウトリーチ活動には350名を超える市民の参加があり、盛況であった。

今後、測定結果をもとにした生活改善のアドバイスを教員やボランティアがより効果的に行える

ように、学習機会などを設けていく必要もあろう。また、ボランティア相互や教員との情報交換や意見交換をより効果的に図る観点から、ボランティアミーティングを継続的に実施すると共に、情報交換のためのツール作り、活用にも力を入れる必要がある。専門職の資格を活かした地域貢献活動は、地域包括ケアシステムにおける地域ボランティア活動のひとつの形態といえる。

学生の参加は、平成28年度は地域プロジェクトを履修している1年生3名が「まちの健康応援室」に登録し、活動に参加した。参加学生は教員やボランティア、「まちの健康応援室」に訪れる市民との交流を通して、授業や実習とは異なった体験をし、会話を通して、高齢者の健康観や価値観に触れる経験をしていた。有意義な活動であるが、「まちの健康応援室」が学生には浸透しているとは言えないため、学生にも「まちの健康応援室」の活動を伝え、関心をより高めていく取り組みが必要があろう。

IV 今後の課題

今後の課題として、以下の5点を挙げる。

1. 「まちの健康応援室」の広報活動を強化してさらなる利用促進につなげると共に、支援内容をより一層充実させる。
2. ボランティア同士、ボランティアと教員の情報交換・意見交換を促進する環境を整え、「まちの健康応援室」活動や運営について、さらなる協働体制の強化を図る。
3. 看護学部を中心とする学生の活動の場として「まちの健康応援室」を提供し、COC Student Plaza（看護）の活動支援を継続する。
4. 「まちの健康応援室」の活動による地域住民への健康支援効果について検証する取り組みを進める。
5. COC事業終了後の体制づくりを進める。

4. 広報企画推進チーム

チームリーダー：吉田 和夫

代表幹事：柿山 浩一郎・山本 勝則

メンバー：【デザイン学部】大淵 一博・石田 勝也・須之内 元洋

【看護学部】猪股 千代子・三上 智子・田中 広美・石引 かずみ

I 本チームの平成28年度の事業概要・目的

本班チームは、「教育改革推進チーム」「研究企画推進チーム」「学び舎企画推進チーム」が推進する事業を、地域・社会へ繋げる支援を目的とした班である。主に、他チームの活動の記録、成果の社会への発信を目的とする。

II 本チームの平成28年度の役割

平成25年度には、本事業の記録・広報のあり方を検討し、具体的な運用の仕組みを構築した。平成26年度には、平成25年度に構築した運用の仕組みに基づき、本事業の活動の実際の記録、ホームページや印刷物を用いた広報（情報発信）を行った。平成27年度は、本事業の中心となる「COCキャンパス」の運営を開始したが、主にCOCキャンパスでの活動にまつわる情報発信を行うことが平成28年度の本チームの役割であるとした。

III 平成28年度の活動

1. 事業計画

本年度、本班に与えられた役割をもとに、具体的に以下の項目について活動を行うこととした。

- 1) 催事イベントの運営
- 2) 広報活動
- 3) 広報WebSiteの運用・改善
- 4) 映像による記録
- 5) 平成28年度報告書の作成

2. 主な活動

1) 催事イベントの運営

(1) 「まこ×まち2016 vol.2」の企画運営（平成28年11月12日）

平成28年2月27日に実施された本COC事業の平成27年度の成果報告会「まちの学校でまなぼう！」に続き、2016年の2回目となるイベントであることから、「まこ×まち2016 vol.2」と称し

てイベントの企画運営を行った。具体的には、広報用のチラシ（北海道新聞での折り込みチラシ）作成、会場内のサインの設計と設置、来場者アンケートの整備、当日の会場設営、来場者の案内、イベントのスチル撮影等を行った。なお、まこまる全体の来場者数が758名、本学の《COCキャンパスまちの学校》来場者数も588名となり、盛況となった。

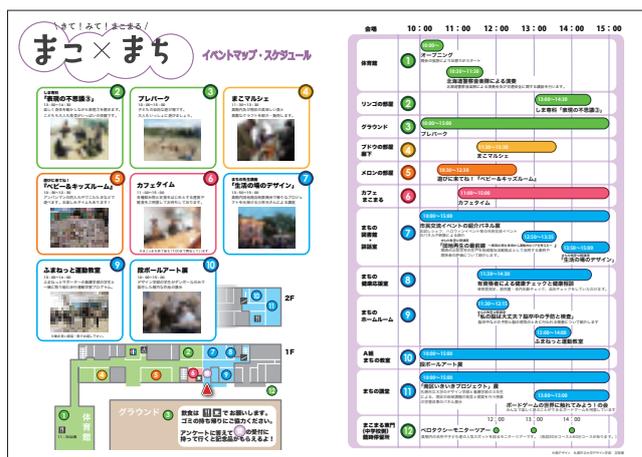


図1：「まこ×まち2016 vol.2」折り込みチラシ

(2) 平成28年度 COC 成果報告会「みんなの発表会」（平成29年2月18日）

本COC事業の平成28年度の成果報告会と位置づけた「みんなの発表会」の企画運営を行った。具

体的には、広報用のチラシ(北海道新聞での折り込みチラシ)作成、来場者アンケートの整備、当日の会場設営、来場者の案内、イベントのスチル撮影等を行った。なお、本イベントの参加者数は、69名となり、盛況となった。



COC活動成果「みんなの発表会」、地域住民と学生による発表の様子



図2: 「みんなの発表会」B4折込チラシ

2) 広報活動

(1) まちの学校新聞の発行

南区住民にまちの学校の活動を周知する(回覧板での配布)、連合町内会役員へ活動の報告を行う(10部の郵送または訪問配布)、文部科学省への報告を行う(札幌市の東京事務所から報告を数部の郵送にて実施)といった目的(方法)で、COCキャンパスでの活動をお知らせする「まちの学校新聞」を10月に発行した。

図3: 地域にまちの学校の様々な活動を紹介、報告する「まちの学校新聞」



(2) 授業成果パネルの作成

3年次の学部連携演習、1年次のスタートアップ演習はCOC事業に関連する演習科目である。平成28年度の両授業の成果をまとめた広報用パネルの作成を行った。「スタートアップ演習」成果報告パネル(図4)と「学部連携演習」成果報告パネル(図5)は別頁(53頁)を参照のこと。

(3) メールマガジンの配信

まちの学校で開催されるイベント情報を定期的にメールマガジンとして配信する試みを続けた。配信は平成27年度同様、毎月末に1回とし、COCキャンパスで実施されたイベントでのアンケートに「今後の情報配信を希望する」と回答した方々に配信した。平成28年度は、4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月(予定)の配信を実施した。

3) 広報WebSiteの運用・改善

平成25年度の成果として、本COC事業のWebSiteを作成し、平成26年度、平成27年度には運用を行いながらシステムやサイト構造の微修正を重ねた。以上のプロセスで一定の安定的なサイトとなったため、平成28年度に関しては、現状のシステムの安定運用に終始し、運用コストの減額につとめた。更新の内容としては、各種イベントの情報発信は継続的に実施し、① Web上での組織体勢図・教員紹介の更新、② 平成27年度の報告書のPDF版を公開、③ 映像による本COC事業の告知ページ(<https://www.youtube.com/user/scucoc>)の制作を行った。

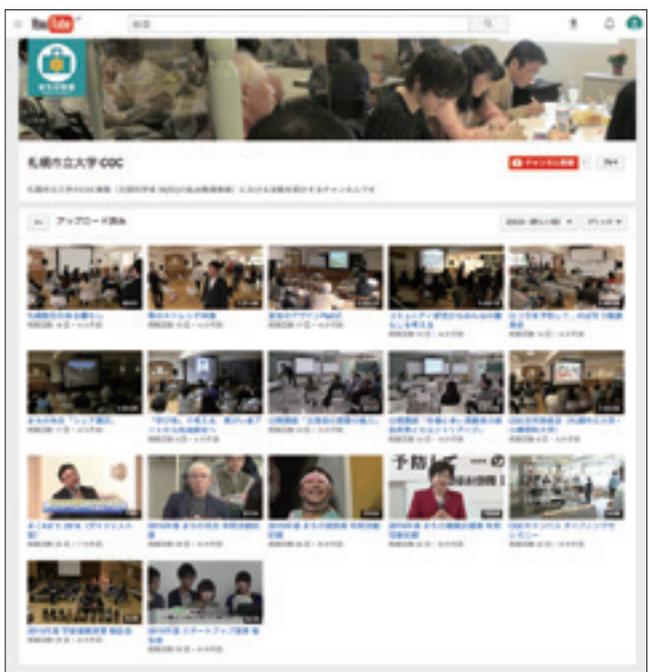


図6: YouTube「札幌市立大学 COCチャンネル」

4) 映像による記録

本映像による記録は、「1. 学生への教育を目的とした教材」としての記録に加えて、「2. 本事業の実施報告」を目的とした記録といった2大方針を掲げ実施してきた。

「1. 学生への教育を目的とした教材」としての位置づけの活用では、先輩の活動を後輩が映像を通して学ぶ【閲覧教材】的な活用を行うことを目的に「YouTube 札幌市立大学 COCチャンネル」の整備をおこなった。加えて、前述の撮影された映像を編集する、といった【編集素材的教材】とし活用した。具体的には、数時間におよぶ素材的な映像を短くまとめる編集作業を、本年度新設された授業「地域プロジェクト」の課題として学生が行い、それを前述の「YouTube 札幌市立大学 COCチャンネル」にて公開する実践的教育活動を行った。

なお、「2. 本事業の実施報告」としての位置づけに関しては、本事業開始から3年が経過したため、学生の学びの風景や地域住民との交流の様子などの映像の記録は最小限にとどめ、次年度（最終年度）に向けた本事業の総括を行うことを目的とした映像制作の検討を行った。具体的には、これまで撮影して来た映像素材を元に、ナレーションを含めたシナリオを検討した。



図7：映像、ナレーション、タイトル等のシナリオ検討表

5) 平成28年度報告書の作成

(1) 平成28年度成果報告書の寄稿依頼

過去3年間の報告書と同様のフォーマットにて、本事業の成果報告書をまとめることとした。昨年度の寄稿依頼に際し、特段の問題がなかったことから、執筆時のフォーマットを配布して、各チーム/各班への寄稿依頼を行った。また、平成27年度版報告書では、印刷後の誤植が発見されたため、校正作業を綿密に行うこととした。

(2) 報告書の位置づけ検討

本COC事業は平成28年度末の段階で3年半(4年目の終了)であり、かつ、COCキャンパスの運用が軌道に乗り、具体的な市民との活動が生まれ

る年度となった。本成果は、地域の住民の皆様、関係機関に広く周知する必要があるとし、平成27年度版同様、年度内での関係各所への配布を目的に作成することとした。



図8：平成28年度成果報告書

3. 評価

本チームに与えられた役割は、具体的なアウトプットを求められるものであったが、滞りなく業務を遂行することができた。また、3年間を通して構築してきた広報の仕組みを継続的に運用し、新たな試みが実施出来たと評価する。

IV 今後の課題

これまでの本チームの活動によって、地域に対する一定の広報効果は得られたが、より身近に札幌市立大学の活動を感じ、理解してもらおう仕組みの検討が必要と考えられる。例えば、地域の回覧板を利用して、札幌市立大学COCキャンパスの活動をお知らせしている「まちの学校新聞」の内容を、現在の「告知・報告型」に加え、本学スタッフや関わっている地域の皆様からのコメント、メッセージなど「会話型」の情報を掲載し、地域と大学をつなぐ親しみやすいコミュニケーション手段として、より質の高いものに改善していきたいと考えている。



札幌市立大学 2016年度「スタートアップ演習」デザイン学部・看護学部 1年生合同授業

デザインと看護の連携

デザイン学部と看護学部の1年生が
はじめに「デザインと看護の連携」をテーマに演習に
取り組みました。「地域に親しむ」ために大学を飛び出し、
プロジェクト活動を企画・実施し、
成果をまとめた発表・報告をチームで
協力して行いました。

●地域の方との交流や地域連携の
強化を目的として、学食での
イベントの企画や地域の食材を
使ったメニューの考案を行いま
した。ポイントカード制度の導
入や学食公式 Twitter アカウ
ントの作成、各栄養士をパレン
とするためのメニューなどを提
案しました。

新しい学食、はじまります。

●チーム1 ハラズ チルドレン

移動式カフェ「faminy」

●チーム2 E.I.F



●様々な世代での交流を実現させるコミュニティカフェの提案を行いました。
運営費や人員などの問題を解決するために移動式のコミュニティカフェとし、
地域の人が集まるイベントの提案や気軽に立ち寄れるような運搬の仕組み、
店舗内でのデザインなどを考案しました。

SCU ツアー

●チーム3 DeN 三郎

●札幌市立大学がさらに地域に親付き、親まれる大学となること。また、
子どもから高齢者まで幅広い年代の交流の場をつくることを目的として、札
幌市立大学での「お泊まり会」を提案しました。お泊まり会では、被災地等
他県からの非営食を
食べたり、子ども
と高齢者が交流でき
る運動などを行います。



脱ストレス社会

●チーム4 どうもろーず

●日々の生活の中でストレスを感じている働く世代の
ために、屋上や地下歩行空間、鉄道高架下などの空
間を有効活用し、憩いの場となる空間を提案しまし
た。地下歩行空間においては「森」「花」「日本庭園」
というテーマに沿った装飾の考案、ビジネススタイルの
屋上緑化計画や高架下には大人のための公園を設計
しました。

おいでよ石山緑地

～地域活性を目指した
石山緑地の再利用～

●チーム5 chan yu-ki

●石山緑地の認知度を高めること。より
地域住民に親しまれることを目的とし
て、石山緑地を有効に活用するための
新たなイベント企画や施設内設備の改
善、施設の提案を行いました。「開地
イベント」の3分野からア
プローチを行いました。



Café Sante

～カラダいきいきシアカフェ～

●チーム6 Minamik Active Club

●札幌市南区は市内でも
特に高齢者人口が多く、
また、高齢者自身意識が
増大していることが問題
となっています。高齢者
に外出の楽しみを提供し
、同世代・多世代間と
の交流の増加および食
による健康促進を目的と
して、カフェという憩
いの場を提案を行いました。

足湯祭

～まごまる water festival～

●チーム9 ときさき

●世代間交流および地域活性化を目的として、まごまるの動物型に可動式の足
湯とウォーターガーデンを設置し、それらを用いたイベントの企画提案を行
いました。自然とコミュニケーションがしやすい足湯を体内にすることで
工夫を凝らしています。



おいでよムクドリ公園

●チーム10 youは何しにむくどり?

●札幌市南区篠野にある「むくどり
ホム」(とリアフリー公園)の「むく
どり公園」は全国的にも珍しい
鳥と健康者の交流の場であり、市
内から多くの子どもやその親が訪
れています。私たちは、交流活動が
さらに活発にしたいという思いから、
年齢や性別を越えた交流のきっかけ
をつくるための遊戯的ワークショップ
を実現しました。



文部科学省「平成25年度研究費」[第1期]の拠点整備事業(大学COC事業)
地(知)の拠点 ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業
[札幌・旭川] 札幌市立大学 地域連携課(COC事務局) e-mail:jim-coc@socu.ac.jp / TEL:011-696-6675

図4:「スタートアップ演習」成果報告パネル



札幌市立大学 2016年度「学部連携演習」デザイン学部・看護学部 3年生 合同授業

札幌市 南区10地域での学び

札幌市立大学では、デザイン学部と看護
学部の3年次学生が、相互の専門性を活かして地域の
課題解決に取り組む「学部連携演習」という授業を行って
います。本年度は、COCカリキュラムとして札幌市南区の
10地区をフィールドに、学び・提案を行いました。
学生の学びにご協力頂きました地域の皆様には
感謝申し上げます。

●交通に不便を感じている人が多いことから、アートなコミュニケーションをデザ
インし、交通の利便性を向上させるため、住宅街を走るバスを提案しました。誰も
が参加できる健康づくりのきっかけとするため、野外歩行靴の芸術性や自然の豊かさを生
かした、ウォーキング型のイベント企画を提案しました。

芸術の森 地域

真駒内 地域

●真駒内での地域活動のモチベ
ーションを維持向上することを目
的として、健康増進をテーマに、真
駒内マニースター(maniesta)と
いうポイントカードを真駒内に配布す
ることを提案しています。真駒内に
住む高齢者が心身ともに健康を
維持し、生き生きとした生活を送
ることができる「Happy Second
Life」の実現を目指しています。

石山 地域

●高齢者が気軽に外出できることをサポートするため、ICT(情報通信技術)
を活用したコンテンツを提案しました。また、高齢者から子供まで幅広い世代が交
流できることを目指し、ファッションショーの提案と意識調査を行いました。



簾舞 地域

●校区が広い地域であることから、子どもたちが安心して遊んで
できるように、蓄光型発光素材を塗布した滑り止め砂「むくどり」を提
案しました。また、通行人という有形文化財を参考として、歩道橋
設や足湯などを併設した道の駅の設置を提案しました。

澄川 地域

●今年度から継続的に始まった「こども
食卓」の活動に軸を置くことで、地域活
動の活性化につなげようと、イベント開
催に協力しました。また、菓室街のある
地区に若者呼び込みを、「ちいっ
み」を利用した地域の活性化策を行
いました。

篠野 地域

●篠野地区の文化活動をサポートするため、設立を検討している図書館内に、地
域の文化や伝統を記録した電子書籍を設置することを提案しました。また、子育
て世代を増やすことを目的として、地域内の公園やワイナリーで開催する婚活パ
ーティーを提案しました。



藻岩下 地域

●この地域は藻岩山山麓に位置
しており、土砂災害の危険性が
予測されています。そこで地域住
民の防災意識をより高めること
を目的として、発着や防災マニ
スタなどの防災教育コンテンツ
を作成しました。実際にまちづくり
センターなどに置いていただき、
今後も活用してもらうこと
としています。

定山溪 地域

●さらなる集居による地域活性化を目的とし
て、飲食店やホテルとタイアップした食のイ
ベント「かっぱマルシェ」を企画しまし
た。また、若年世代をターゲットとし
たスリック施設を作り、温泉施設の利用にも
つなげることを目的とした提案を行いました。



南沢 地域

●地域で開催されているイベントへの
参加者が減少しているという課題が
あり、認知症予防をしながら、地域住民ど
うし交流できるイベントを企画・実
施しました。また、地区内にある「市民の
森」の認知度を高めるため、散策ルート
や樹生などを掲載したパンフレットを制
作しました。



藻岩 地域

●地域住民の世代間交流を促進するた
め、カフェを併設した地域住民による探
索を行うための「まいわキャンパス」を
提案しています。また、空き家を利用
したゲストハウスを提案しました。キ
ャンプバスとゲストハウスの相乗効果を
狙っています。



文部科学省「平成25年度研究費」[第1期]の拠点整備事業(大学COC事業)
地(知)の拠点 ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業
[札幌・旭川] 札幌市立大学 地域連携課(COC事務局) e-mail:jim-coc@socu.ac.jp / TEL:011-696-6675

図5:「学部連携演習」成果報告パネル

5. COC 特任教員

藪谷 祐介

I COC 特任教員の平成28年度の活動目的

COC 特任教員は、事業を円滑に推進させることを目的とし、札幌市立大学の教職員、学生、各地域関係者などと連絡・調整をする。また、本事業においてデザイン学部と看護学部が協力し、互いの専門性を発揮し、事業を展開していけるように、コーディネートする役割を担う。

今年度は、昨年度に引き続き、「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」を活用した事業を円滑に推進することを目的とし、各チーム、班が個々に活動を推進し、連携・協力できるように、連絡・調整、企画・運営に携わる。

II COC 特任教員の平成28年度の役割

1. 札幌市立大学の教職員、学生、各地域関係者などと連絡・調整をする。
2. 本事業においてデザイン学部と看護学部が協力し、互いの専門性を発揮し、事業を推進していくことができるように連絡・調整する。
3. 各チーム、班が個々に活動を推進し、連携・協力し、活動できるように、連絡・調整、企画・運営に携わる。
4. 異分野連携科目の深化ならびに地域課題の体感・発見に向けた教育改革（COCカリキュラム）を推進させる。
5. SCUまちの教室公開講座・授業公開、まちの談話室による多世代・多セクターの交流、まちの先生の企画・運営、まちの健康応援室の運営を推進する。
6. 各種情報発信および学内外関係者による各種会議の開催に関しての調整や準備を行う。
7. 「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」の企画・運営を行う。
8. 事業に関連する様々な団体や多世代、多セクターとのネットワーク形成を行う。
9. 事業の実施にあたり必要となる場のデザインや整備を行う。
10. 関連施設や大学の視察調査や関連シンポジウム・会議参加による情報収集、関連大学の視察

を受け入れ、情報交換を行う。

11. 「COC Student Plaza」に申し込みした学生たちの相談を受け、授業外での学生の主体的な社会貢献活動を支援する。
12. COC 事業終了後の方針について検討する。

III 平成28年度の活動

1. 事業計画

- (1) 教育改革（COCカリキュラム）を推進するために、異分野連携科目「スタートアップ演習」、「学部連携演習」、「地域プロジェクト」の授業を担当する。
- (2) SCUまちの教室公開講座・授業公開の企画・運営を推進する。
- (3) SCUまちの談話室による多世代・多セクターの交流の企画・運営を推進する。
- (4) SCUまちの先生企画講座の企画・運営を推進する。
- (5) SCUまちの健康応援室の企画・運営を推進する。
- (6) 事業に関連するさまざまな団体や多世代、多セクターと交流する機会を作り、ネットワーク形成を行う。
- (7) 札幌市立大学COCキャンパスが入居する施設「まこまる（旧真駒内緑小学校）」の他の入居者（Coミドリ、ちあふる・みなみ、真駒内相談指導教室）と連携体制を整える。
- (8) 事業の実施にあたり必要となる場のデザインや整備を行う。
- (9) 関連施設や大学の視察調査や関連シンポジウム・会議参加による情報収集、関連大学の視察を受け入れ、情報交換を行う。
- (10) 「COC Student Plaza」に申し込みした学生たちの相談を受け、授業外での学生の主体的な社会貢献活動を支援する。
- (11) COC 事業終了後の方針について検討する。

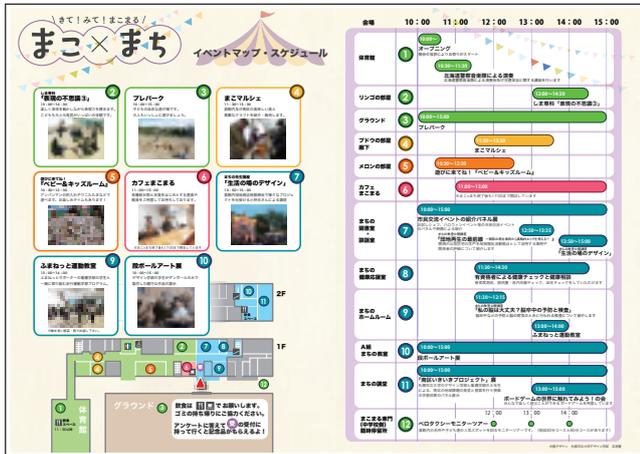
2. 主な活動

1) 教育改革（COCカリキュラム）の推進

- (1) 他の専任教員とともに、「スタートアップ演習」と「学部連携演習」のグループを担当し、学生の指導を行った。また、「学部連携演習」に関しては、札幌

市南区地域振興課との連絡・調整を行い、授業が円滑に運営できるよう科目責任者の支援を行った。

(2) 今年度から新設した地域志向科目「地域プロジェクト」の1プロジェクト「まこ×まち 2016 vol.2」を担当し、学生の行う運営補助、サイン計画、リーフレット制作に関する指導、および地域団体との連絡・調整を行った。



学生が制作したイベントリーフレット

2) SCU まちの教室公開講座・授業公開の企画や運営を推進させるための連絡・調整を行った。また、まちの学校の賑わい創出および広報の一環として、下記の公開講座の企画・運営・実施、および地域団体との連絡・調整を行った。

(1) 「エドウィン・ダンと真駒内のまち」(平成28年6月4日、11日、25日)

企画者である中原宏教授の企画・運営の支援、およびリーフレット制作と、地域団体との連絡・調整を全3回の公開講座を通して行った。



「エドウィン・ダンと真駒内のまち」A4リーフレット

(2) 「真駒内のエリアリノベーションを考える—自分らしい暮らしを自分でつくるまちづくり」(平成29年2月26日)

企画者として、企画・運営・講師を行った。

3) SCU まちの談話室による多世代・多セクターの交流の企画・運営を推進させるための企画、運営、連絡、調整を行った。

(1) 真駒内大風呂敷プロジェクト おおう

まちの学校に市民交流の場を創出することを目的に、真駒内団地商店会振興会と共催で地域の盆踊で使用する櫓をおおう大風呂敷を制作するプロジェクトの企画・運営、および真駒内団地商店会振興会の担当者との連絡・調整を行った。



「真駒内大風呂敷プロジェクト おおう」の大風呂敷制作風景

(2) わらしべ長者の会

ものの交換を通して市民交流を図るイベントを、地域の任意団体まち班と共催するにあたって、担当者との連絡・調整、および企画支援を行った。

(3) スタートアップ演習 展示会

平成28年度のスタートアップ演習の成果のまちの学校での展示会の企画支援や各関係者との連絡・調整を行った。

(4) 学部連携演習 展示会

平成28年度の学部連携演習の成果のまちの学校での展示会の企画支援や各関係者との連絡・調整、およびリーフレットを作成した。



「学部連携演習」成果展示会の様子と広報用リーフレット



4) SCU まちの先生企画講座の企画や運営を推進させるための連絡や調整を行った。

(1) 下記のまちの先生の企画にあたり、まちの談話室班や講師となる先生との連絡・調整および企画支援を行った。

・「大風呂敷づくりの魅力！あなたも「縫子さん」になりませんか？」(平成28年7月26日)

・「生活の場のデザイン」(平成28年11月12日)

・「医学生による救命講習 みんなで学ぼう AED」(平成29年1月28日)

・「北海道を唄おう、踊ろう、演じよう」(平成28年11月19日)

・「菜園(ポタジェ)がある暮らし」(平成28年10月22日、平成29年1月21日、3月25日)

(2) まちの先生運営委員として、まちの先生のしくみを検討することや、応募された企画を協議するなどの役割を担った。また、まちの先生企画募集説明会(春季、秋季の2回)の企画・運営、登壇者との連絡・調整を行った。



まちの先生企画募集説明会

5) SCU まちの健康応援室の企画や運営を推進させるために連絡・調整を行った。

(1) 今年度はアウトリーチ活動を積極的に推進するために、まちの健康応援室で作成した資料を活用した各関連機関への周知および出張企画実施に向けた連絡・調整を行った。その結果、「定期的なミニ出張講座」(ちあふる・みなみ)、「ファーストエイド研修」(Coミドリ)、「もりの仲間のさわやかクラブ ハツラツ介護予防」(芸術の森地区社会福祉協議会・福祉のまち推進センター)、「認知症サポーター養成講座」(南区第1包括支援センター)の実施につながった。

(2) まこまるで実施したイベント「夏フェスタ&災害時に備えて」(主催 札幌市、共催 真駒内地区連合会)にまちの健康応援室として参加するにあたり、

連絡・調整、および当日の運営補助を行った。

(3) 昨年度に引き続き、まちの学校を第2会場として、札幌市南区のイベント「みんなでみに区る健康まつり 2016」を実施した。南区保健福祉部担当者、および学内教員との連絡・調整、およびイベント当日のレイアウト検討を行った。

6) 広報活動



みんなでみに区る健康まつり 2016

(1) SCU まちの教室公開講座・授業公開、SCU まちの談話室の企画イベント、SCU まちの先生企画講座等各種イベント、SCU まちの健康応援室活動の広報を他大学視察訪問者や関連機関等で説明し、周知を行った。また、地域の小学生(桜山小学校)約110名の施設見学の受け入れを行い、COC事業やまちの学校について説明し、周知をした。

(2) COCの取り組みを地域住民に周知することを目的に、広報チームで制作する「まちの学校新聞」の掲載内容の情報収集、文章作成を行った。

7) 今年度のCOC事業の成果を発表する「みんなの発表会」の開催(平成29年2月18日開催)に向けて、イベント内容の企画立案・検討、および広報チームや学内教員、地域住民との連絡・調整を行った。

8) 「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」の運営の推進

札幌市やCoミドリ、ちあふる・みなみ関係者、地域の関係者との連絡・相談・調整・報告や広報活動を行い、「まちの学校」を拠点とした事業の運営を推進してするための役割を担った。

9) まこまる入居者との連携

まこまる入居者である、Coミドリ、ちあふる みなみ、真駒内相談指導教室と「まこまる運営協議会」(札幌市、南区も出席)や「まこまる情報交換会」を毎月開催することで、まこまる入居者の連携体制を整えた。

また、まこまる入居者が連携して施設をPRす

るために、まこ×まち2016 vol.2実行委員会を立ち上げ、平成28年11月12日(土)に共同イベント「まこ×まち2016 vol.2」を開催した。実行委員のメンバーとして、企画・準備・運営を行った。また、イベント内で本学が開催する企画に関する各チーム・班との連絡・調整、および会場全体のレイアウト作成を行った。

10) 関連大学の視察受け入れ、情報交換

・秋田公立美術大学 平成28年10月20日

来訪者：秋田市企画財務部企画調整課公立大学法人担当者2名

11) COC Student Plaza

地域社会に貢献したいと考える学生を支援するCOC Student Plazaに申し込みした学生たちの相談を受け、授業外での学生の主体的な社会貢献活動を支援した。登録している学生総数は、平成28年度11名(デザイン学部6名、看護学部5名)である。学生たちは、まこまるプレーパークの遊具のデザインや、健康づくりサークル等の活動を行った。



健康づくりサークル

12) COC事業終了後の方針の検討

「Post COCワーキンググループ」のメンバーとして、COC事業終了後の方針について他の教職員とともに検討した。

3. 評価

「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」を活用した事業の運営を円滑に推進させるために、札幌市立大学の教職員、学生、各地域関係者などと連絡・調整に努めたことにより、各チーム・班が滞りなく事業を推進することができた。また、COC Student Plazaの学生への支援を行うことで、主体的な活動(健康づくりサークルによるふまねっと)が定着してきたことも評価できる。

IV 今後の課題

まちの学校を活用した事業が各チーム・班により活発に行われている一方で、参加人数が集らない等の課題も見受けられる。地域のニーズに合ったイベントの企画、および効果的な広報活動が必要である。また、まちの学校の活動に参加する学生が限られているので、より多くの学生の参加を促す仕組みや方法を検討する。

平成25年～29年度 文部科学省

「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

平成28年度成果報告書

発行日：平成29年3月31日

発行：札幌市立大学

編集：札幌市立大学COC広報企画推進チーム/COC事務局



●大学本部/デザイン学部/デザイン研究科

芸術の森キャンパス：〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目

●看護学部/助産学専攻科/看護学研究科

桑園キャンパス：〒060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目

●SCUまちの学校

COCキャンパス：〒005-0864 札幌市南区真駒内2丁目2-2 まこまる内

【連絡先】

札幌市立大学 COC事務局(地域連携課内)

e-mail : coc-office@jimmu.scu.ac.jp Tel : 011-596-6675 Fax : 011-596-6676

<http://cocc.scu.ac.jp/>

*ウェルネス (Wellness) とは、
生涯にわたり、「健康で」「楽しく」「生き甲斐がもてる」状態